



# 環境・社会報告書2018

株式会社ダイセキ環境ソリューション



# 芽ぐむ

— 考えが生まれる、芽・若枝を発達させる

当社は、より多くの環境問題に挑戦していくため、2025年に会社のありたい姿として「VISION 2025」を策定しました。今年度のテーマは、「VISION 2025」で掲げられた3つの目標（土壌ビジネスにおけるシェア拡大と市場創造・新規環境ビジネスにおける開拓者の地位確立・価値観を共有し、社員一丸で働ける組織の構築）の芽・若枝を大きく育てたいとの願いを込め、「芽ぐむ」としました。



表紙写真：資源循環事業部 大岩 奈奈

目次写真：(株)グリーンアローズ九州 福井 隆之

裏表紙写真：名古屋事業部 早川 光美

## 編集方針

本報告書は、ステークホルダー<sup>※</sup>の皆様にご理解いただくこと、そして当社全社員の意識向上を図ることを目的として発行しております。報告書の作成は、例年通り当社新入社員が作成委員となっており、より会社の雰囲気や文化が伝わるものを目指して作成いたしました。

また、毎年皆様からいただいたご意見を参考に、紙面や取り組みの向上を図っております。巻末にアンケートがございますので、ご意見や感想がございましたら、是非お聞かせください。

<sup>※</sup> 利害関係者を意味する言葉。具体的には、消費者（顧客）、従業員、株主、取引先、地域社会、行政機関等が挙げられる。

# 目次

- 3 トップメッセージ
- 5 会社概要
- 6 SDGs への取り組み
- 7 事業紹介
- 12 特集 既存事業拡大の芽  
弥富リサイクルセンターが与えた影響
- 13 特集 新規事業の芽  
ブラウンフィールド再生流動化事業
- 14 環境マネジメント
- 15 マスバランス
- 16 環境測定データ
- 19 環境負荷低減の取り組み
- 23 社会貢献活動
- 25 外部インタビュー
- 26 働きやすい職場づくり
- 29 特集 繋がり意識向上の芽  
名古屋本社移転への思い
- 31 安全衛生管理
- 33 コンプライアンス
- 34 第三者コメント
- 35 環境・社会報告書 2017 アンケート結果  
編集後記
- 36 アンケート用紙

**発行日** 2018年8月31日

**対象期間** 2017年4月1日～2018年3月31日

**対象範囲** 株式会社ダイセキ環境ソリューション

本社、東京本社、関西支社、九州支店、東北支店、西日本営業所、名港事務所、PCB事務所、名古屋リサイクルセンター、  
弥富リサイクルセンター、横浜リサイクルセンター、大阪リサイクルセンター、仙台リサイクルセンター（共同事業汚染土壌処理施設）、  
バイオエナジーセンター、名古屋トランシップセンター

株式会社グリーンアローズ中部

本社工場、名港工場

株式会社グリーンアローズ九州

**作成部門** 環境・社会報告書 2018 作成委員会 大野晴 野々山智 秦博則 森田沙也香 八木孝憲

**連絡先** 企画管理本部 総務部 総務課  
Tel. 052-611-6350 FAX. 052-611-4022  
E-mail : info@daiseki-eco.co.jp



## Top message

## トップメッセージ

## -MISSION-

私たちは、日本を代表する  
「環境リバリューストラクチャー」  
創造企業を目指します。

私たちは、社会的に不要になったり、  
負の環境影響を与えるものに対し、  
工夫を凝らし、再び価値をつける新しい仕組み  
『環境リバリューストラクチャー』  
を創造して、環境課題を解決します。



株式会社ダイセキ環境ソリューション 代表取締役社長

二宮利彦

## ■ はじめに

当社が環境・社会報告書を発行し、おかげさまでもちまして今年で10年目となります。例年、その年に入社した新入社員を中心に若手社員で作成しており、ステークホルダーの皆様にお伝えしたい内容に合わせて年々改善を重ねております。日頃より温かいご支援をくださるステークホルダーの皆様には心より御礼申し上げます。

## ■ ミッション

当社の事業は、捨てられてしまうようなものを、私たちの工夫で価値あるものに生まれ変わらせることです。当社は、そのことを「環境リバリュー」、そして、そのような仕組みを「環境リバリューストラクチャー」と定義し、この仕組みを出来るだけ多く創造することで、持続可能な循環型社会の実現に貢献することを目指しております。現在では、土壌汚染対策事業、廃石膏ボードリサイクル事業、地盤改良材事業、バイオディーゼル燃料事業、PCB処理事業、蛍光灯・乾電池・バッテリーリサイクル事業を行っていますが、これから先も現事業に限定する、ということはありません。より多くの環境問題に対して「当社ならではの画期的な解決策（ソリューション）」を提案することで、社会に貢献したいと考えております。

## ■ 環境・社会報告書2018年について

今年度の環境・社会報告書のテーマは『芽ぐむ』です。芽ぐむには「芽吹く」、「芽・若枝を発達させる」の意味があります。私たちは2015年に、私たちの目指す10年後の会社の姿の目印として「VISION2025」を創りました。取り組み始めて4年目の中盤に差し掛かる今年度、今一度社員全員で強く意識したいという願いを込め設定したテーマです。一人ひとりが自分たちの目指す姿を強く意識して生活することが、私たちの新たな発想や社員の強い一体感を駆り立て、それによって当社の更なる成長への原動力が『芽ぐむ』ことを期待しております。

## ■ 未来に向けての環境づくり

新しいものが芽ぐむには種をまく必要があります。栄養の高い土、十分な水等様々な準備も必要です。2017年度はそんな未来に向けて入念に準備をして種を蒔く年でした。現在日本は、建設中のリニア中央新幹線や2020年に控える東京オリンピックによりビジネスやレジャーの新しい需要を喚起しています。それらに伴うインフラ整備等大規模な開発を控える中、当社の事業は主力の土壌汚染対策事業をはじめ多くの場面で活躍できると考えております。そのタイミングが来た時に最大限の活躍をするための準備の一つとして、昨年は新たに国内最大級の汚染土壌洗浄処理プラント、弥富リサイクルセンターが稼働を始め、当社の汚染土壌処理能力を大幅に拡大することができました。



## — VISION2025 —

### 3つの目標

- ① 土壌ビジネスにおけるシェア拡大と市場創造
- ② 新規環境ビジネスにおける開拓者の地位確立
- ③ 価値観を共有し、社員一丸で動ける組織の構築

### 具体的な取り組み

国内最大級の処理能力を持つ汚染土壌洗浄施設「弥富リサイクルセンター」の新設、新規事業「ブラウンフィールド再生流動化事業」の開始、ビジョン実現に貢献した社員が報われる「人事制度」、生産性向上を目指した「働き方改革」、さらにビジョン実現のための日々の行動指針「クレド」の策定等を行いました。また、社員が働きやすく一つのチームとなることができる環境を整えるため、「本社移転プロジェクト」も進行中です。



▲弥富リサイクルセンター



▲山梨のブラウンフィールド再生流動化事業の現場



▲私たちのクレド

### 目標達成後の姿

社員の働く幸せと安定的な生活を維持し、それぞれの夢や目標の達成を支援するとともに、ステークホルダーや社会の期待に応えていきます。

#### ■ 新たな芽

また、そうした準備を行う一方で「ブラウンフィールド再生流動化事業」という新たな形での土壌リサイクル事業が芽を出した年でもありました。2007年の環境省の発表で、日本には土壌汚染、または土壌汚染の懸念により開発が進まない「ブラウンフィールド」と呼ばれる土地が2.8万ha存在していると言われていました。これは東京ドーム約5960個分に値する広さです。当社では、そんな価値を失ったブラウンフィールドを買い取り、これまでに培った技術とノウハウで浄化や措置を施し、再び価値を生み出した後に売却することで、次の土地利用に繋げるという取り組みを始めました。この取り組みはまさに、私たちのミッションである環境リバリューストラチャーを具現化する事業の一つであると自負しております。

#### ■ 新たな地で強まる一体感

当社は2018年秋に本社移転を予定しております。2018年は新たな地で再スタートを切る年でもあるのです。現在本社外に事務所を構える事業推進部と資源循環事業部PCB課も、この度の移転にて本社に事務所を移します。離れた地で顔を合わせずに働いていた部門が集結し、同じ空間で生活することで、社内の一体感が一層高まることを期待しております。

最後になりましたが、平素よりご協力いただいておりますステークホルダーの皆様には、多大な感謝を申し上げます。これからも皆様の期待に応えるべく、日々精進してまいります。

## Company profile

## 会社概要

<http://www.daiseki-eco.co.jp>

商号 株式会社ダイセキ環境ソリューション  
(東京・名古屋証券取引所一部 証券コード1712)

代表者 代表取締役社長 二宮 利彦

設立 1996年11月1日

資本金 22億8,746万8,700円

従業員数 189名(2018年6月末現在)

業務内容 汚染土壌調査及び対策工事、汚染土壌・産業廃棄物処理及び収集運搬、環境分析、水銀リサイクル、環境コンサルティング、廃石膏ボードリサイクル、地盤改良材製造、バイオディーゼル燃料製造販売、PCB廃棄物収集運搬及びコンサルティング

## 事業所

- 本社  
愛知県名古屋市港区船見町1番地86
- 東京本社  
東京都港区芝浦3丁目8番10号 MA芝浦ビル7階
- 関西支社  
大阪府大阪市大正区南恩加島7丁目1番82号
- 九州支店  
福岡県糟屋郡宇美町ゆりが丘2丁目7番15号
- 東北支店(愛子事務所)  
宮城県仙台市青葉区上愛子字平治15番1号
- 西日本営業所  
広島県広島市南区的場町1丁目1番21号  
クリスタルタワー903号
- 名港事務所  
愛知県名古屋市港区築三町3丁目1番3
- PCB事務所  
愛知県東海市南柴田町ホノ割213番地7

## グループ会社

- 株式会社グリーンアローズ中部 本社工場  
愛知県東海市南柴田町ホノ割213番地7
- 株式会社グリーンアローズ中部 名港工場  
愛知県名古屋市港区築三町3丁目1番3
- 株式会社グリーンアローズ九州  
福岡県糟屋郡宇美町ゆりが丘2丁目7番15号

## ダイセキグループ

- 株式会社ダイセキ  
愛知県名古屋市港区船見町1番地86
- 北陸ダイセキ株式会社
- 株式会社ダイセキMCR
- システム機工株式会社

## 工場

- 名古屋リサイクルセンター  
愛知県東海市新宝町29番地1
- 弥富リサイクルセンター  
愛知県弥富市楠3丁目24番地2
- 横浜リサイクルセンター  
神奈川県横浜市鶴見区生麦2丁目2036番地50
- 大阪リサイクルセンター  
大阪府大阪市大正区南恩加島7丁目1番82号
- 共同事業汚染土壌処理施設  
(仙台環境開発株式会社 中間処理場内)  
宮城県仙台市青葉区芋沢字青野木223番地3
- バイオエナジーセンター  
愛知県東海市浅山3丁目203
- 名古屋トランシップセンター  
愛知県弥富市楠3丁目24番地2

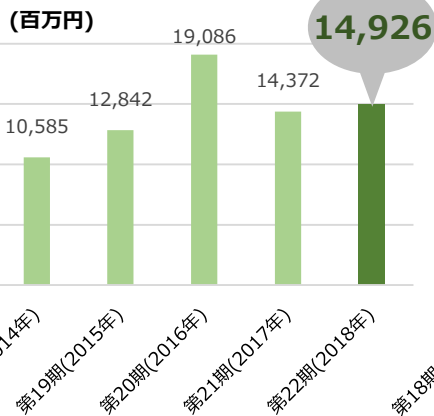
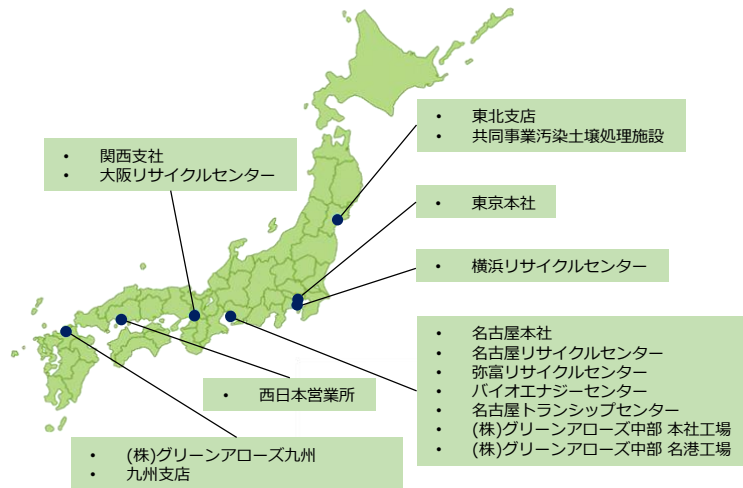


図1 売上高推移

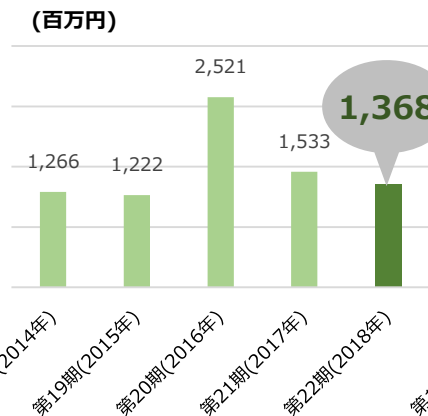


図2 経常利益推移

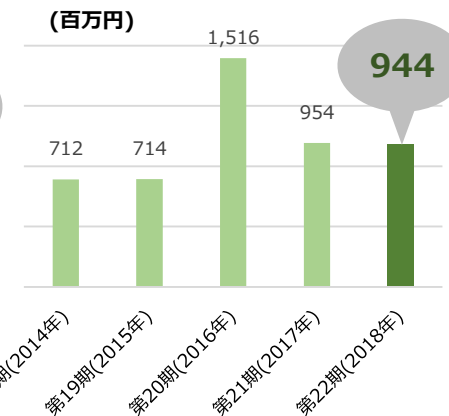


図3 純利益推移

※ (株)ダイセキ環境ソリューション連結 (2月期決算)

## Efforts of SDGs

# SDGsへの取り組み

当社は、社会の一員として、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）に配慮した事業活動を行い、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」※の達成に貢献しています。

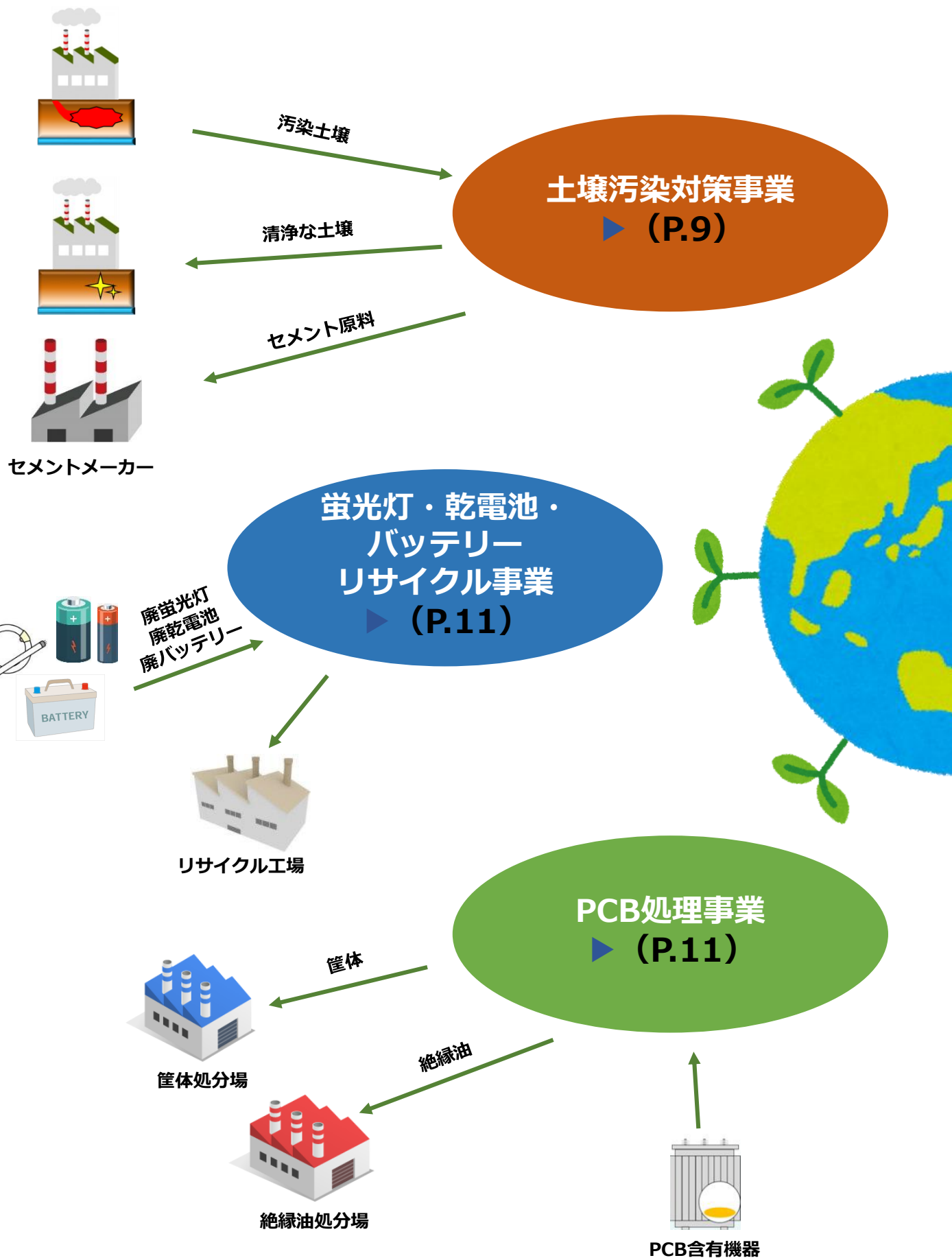
	当社の取り組み内容	該当するSDGs
環境 (E)	<b>環境リバリューストラクチャー創造企業として、循環型社会の構築、環境保全、地球温暖化防止を推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土壌汚染対策事業 ▶ (P.9)</li> <li>・ 廃石膏ボードリサイクル事業 ▶ (P.10)</li> <li>・ 地盤改良材事業 ▶ (P.10)</li> <li>・ バイオディーゼル燃料事業 ▶ (P.11)</li> <li>・ PCB処理事業 ▶ (P.11)</li> <li>・ 蛍光灯・乾電池・バッテリーリサイクル事業 ▶ (P.11)</li> </ul>	   
	<b>環境マネジメントシステム（ISO14001）に則り、環境への負荷を継続的に改善 ▶ (P.14)</b>	
社会 (S)	<b>働き方改革の推進：フレックスタイム制、時間有給休暇、モバイル化等の導入によるワークライフバランスの改善 ▶ (P.26)</b>	
	<b>安全衛生の推進 ▶ (P.31)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高所からの落下防止対策</li> <li>・ 安全衛生部会の月次開催</li> <li>・ 交通災害対策（安全運転講習の受講、通信対応ドライブレコーダーの導入）</li> <li>・ メンタルヘルスチェック</li> <li>・ 安全研修</li> <li>・ 熱中症予防</li> </ul>	 
	<b>干潟・公園・構外清掃活動、施設見学会等を通じた、地域社会との信頼関係構築 ▶ (P.23~24)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 藤前干潟クリーン大作戦</li> <li>・ 大阪マラソン「クリーンUP」作戦</li> <li>・ 工場周辺の構外清掃</li> <li>・ 取引先や地域住民に向けた施設見学会</li> </ul>	  
	<b>災害廃棄物の処理対応 ▶ (P.25)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JDTS（一般社団法人日本災害対応システムズ）への参加</li> <li>・ JDTSを通じた熊本震災での災害廃棄物処理</li> </ul>	
ガバナンス (G)	<b>コーポレートガバナンス：取締役会、監査等委員会、社外取締役、内部監査、会計監査人 ▶ (P.33)</b>	
	<b>コンプライアンス勉強会の毎月開催</b>	
	<b>取締役向けRS報酬制度の導入</b>	

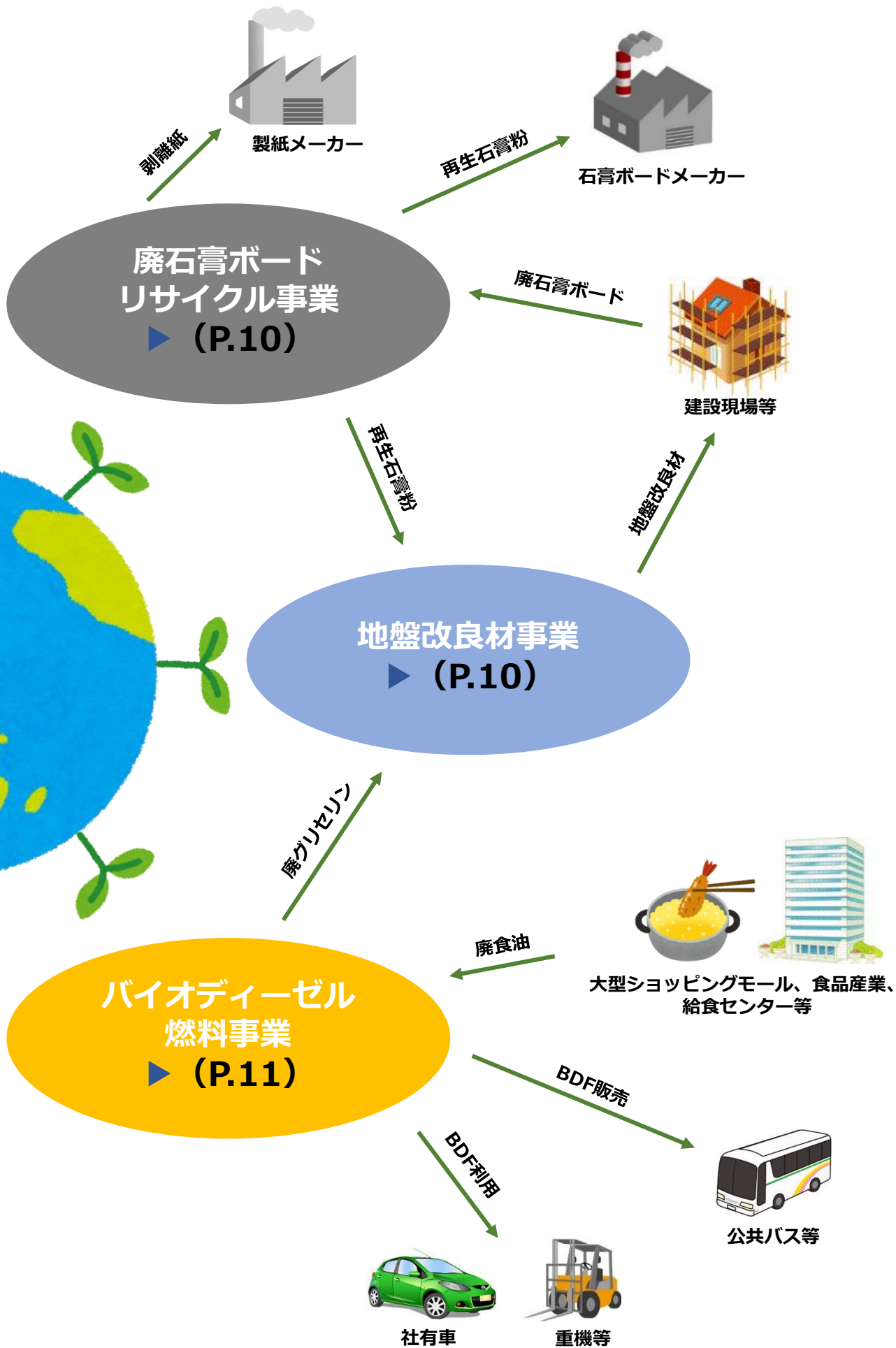
※ 2015年9月に国連サミットで採択された2030年までの国際目標。「誰一人取り残さない」を基本理念として、格差の問題、持続可能な消費や生産、気候変動対策等の課題を解決して持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されており、各国政府のみならず民間企業も達成に向けて大きな役割を担うことが期待されている。



Business introduction

事業紹介

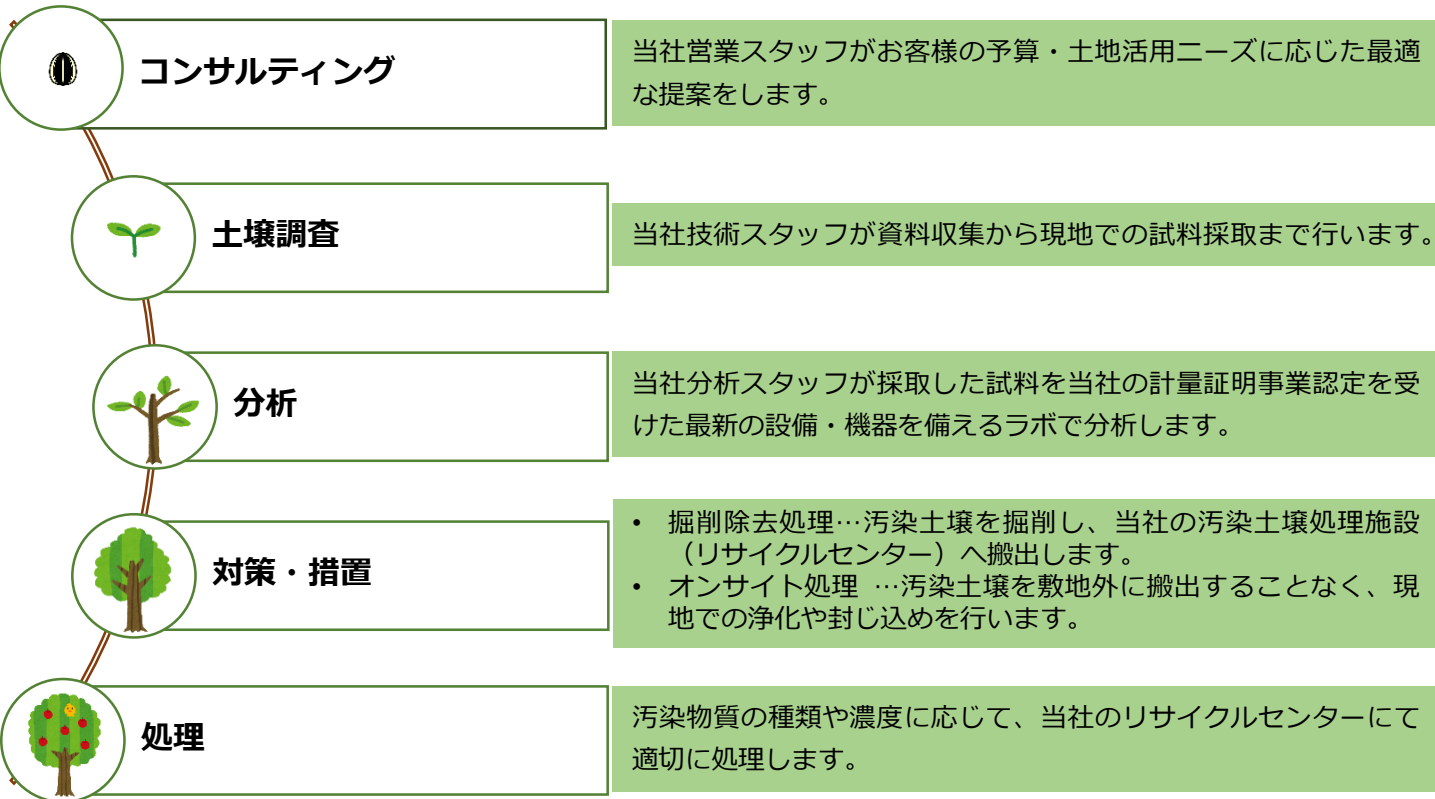




## 土壤汚染対策事業

一般的に、汚染土壤の調査、対策や処理をする場合、調査、分析、施工、処理と複数社に依頼しなければなりません。当社は、コンサルティング、調査、分析、対策、措置、処理を自社で行う「One-stop solution」により、スピーディーな対応、価格の優位性に加え、情報漏洩防止等、お客様に低価格で安全・安心なサービスを提供しています。

### One-stop solution



### 環境に優しい当社の汚染土壤処理

当社のリサイクルセンターでは、汚染土壤を再資源化する環境に優しい処理を行っています。

- 洗浄処理** 汚染土壤を水洗いし、清浄な土壤と汚染物質が含まれる細粒分に分離する工法です。洗浄後の清浄な土壤は埋め戻し土として再利用が可能です。
- セメント原料化** 分別・分級・混練処理を行うことで、セメント原料に適した性状に改質され再資源化します。
- 抽出・化学脱着処理** 揮発性有機化合物（VOC）を含む汚染土壤を当社のVOC自動浄化システムによって浄化します。浄化後の清浄な土壤は埋め戻し土として再利用が可能です。

### 全国の汚染土壤を処理可能

高い処理能力を持つリサイクルセンターが各地区で稼働しており、全国の汚染土壤の受入・処理が可能です。



名古屋リサイクルセンター



弥富リサイクルセンター



横浜リサイクルセンター



大阪リサイクルセンター



仙台リサイクルセンター  
(共同事業汚染土壤処理施設)



## 廃石膏ボードリサイクル事業

石膏ボードは、建物の壁下地等として幅広く利用されていますが、石膏ボードは一定の条件を満たすと人体に悪影響を及ぼす硫化水素を発生させる可能性があることから、適切な処理が求められます。当社グループ会社の（株）グリーンアローズ中部（GAC）本社工場及び（株）グリーンアローズ九州（GAK）では、廃石膏ボードを再生石膏粉と剥離紙に分離する中間処理を行っています。



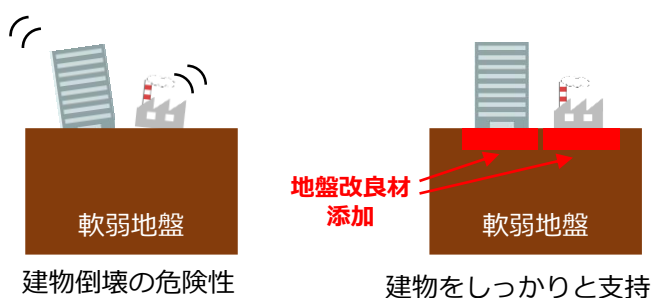
### 低コストで確実な再資源化をするためのコンソーシアム

廃石膏ボードの排出元となる大手ゼネコン、産業廃棄物処理業者、再生石膏粉の受入先となる石膏ボードメーカーが共同出資し、GAC・GAKは設立されました。そのため、結束力が強く確実で効率的なリサイクルルートを実現しています。



## 地盤改良材事業

地盤改良材とは、強度の不足する軟弱地盤や地震の際に液状化現象等が発生しやすい地盤等を固化するものです。GAC名港工場では、原料の半分以上に再生資源（GAC本社工場で再資源化された再生石膏粉やその他再生資源）を使用した、地盤改良材を製造しています。



### 循環型社会の実現に貢献

当社製品のGAシリーズは「あいくる材」認定商品です。

あいくる材



資源循環社会の構築を目指し、愛知県の公共工事でリサイクル資源を積極的に活用するためのリサイクル資源評価制度です。

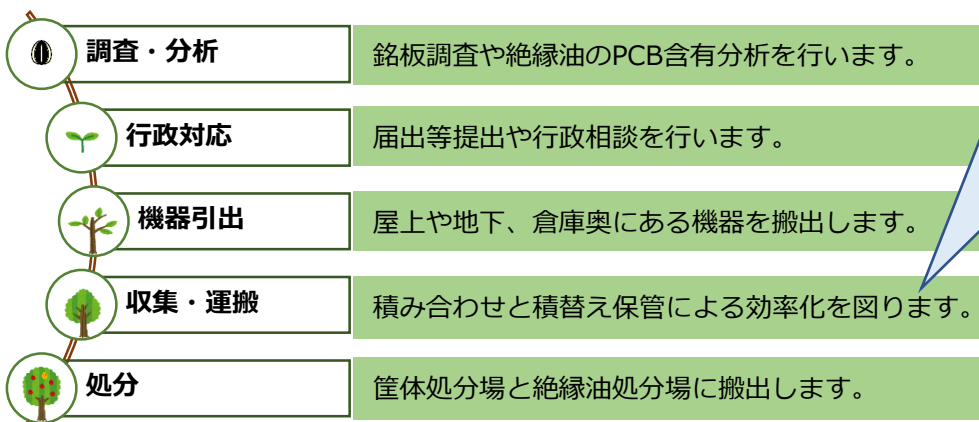
## バイオディーゼル燃料事業

バイオディーゼル燃料（BDF）とは、生物由来の油から作られるディーゼル燃料です。BDFの使用により排出されるCO<sub>2</sub>は、元々原料である植物が大気中から吸収したものです。よって、地球環境中のCO<sub>2</sub>は増加したことになります。当社では、大型ショッピングモールや食品産業、給食センター等から排出される廃食用油（天ぷら油）を回収し、バイオエネルギーセンターでBDFを製造しています。



## PCB（ポリ塩化ビフェニル）処理事業

PCB含有機器を所有する事業者には、PCB特別措置法の制定により、保管等の届出、期間内（2027年3月31日まで）の処分、譲渡の制限等の様々な責務が生じます。また、処分には法規制が多く複雑な行政対応が必要となります。当社では、PCB含有機器の処分までのプロセスを行政対応を含め一貫して対応しています。また、大型PCB含有機器の解体や漏洩事故、不法投棄対処等PCBに関する様々なトラブルにも対応します。

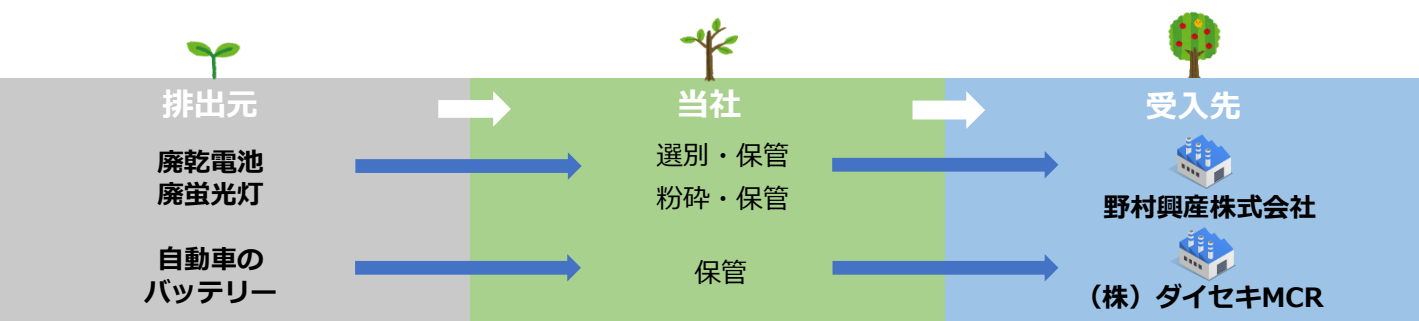


## 蛍光灯・乾電池・バッテリーリサイクル事業

当社では、廃蛍光灯や廃乾電池等の水銀含有物を回収して中間処理を行い、水銀リサイクルを行う野村興産株式会社へ搬出しています。また、鉛が使用されている廃バッテリーは（株）ダイセキMCRに搬出しています。

### 環境へのメリット

各事業者からリサイクル工場へ別々に輸送すると、多大なコストと資源を消費します。そこで、当社の保管施設へ収集し、中間処理を行った上でまとめて搬出することにより、省エネ・コスト削減に貢献しています。



# 特集 既存事業拡大の芽

## 弥富リサイクルセンターの稼働が与えた影響

2017年4月、愛知県弥富市に国内最大級の処理能力を持つ汚染土壌洗浄施設「弥富リサイクルセンター（RC）」をオープンしました。本特集では、弥富RCが当社の土壌汚染対策事業に与えた影響とこれからの成長について紹介します。

### ■ 弥富RCが与えた影響

弥富RCでは、汚染土壌を主に「洗浄処理」しています。本処理の特徴は、汚染土壌の多くを再利用可能な土にできることです。

今までは東海地区限定で、汚染土壌の洗浄処理を行っていましたが、弥富RCでは、国内最大級の処理能力、これまでの経験とノウハウを活かし、全国の汚染土壌を洗浄処理できるようになりました（図1）。これにより、全国の汚染土壌が再利用可能な土に生まれ変わり始めています。

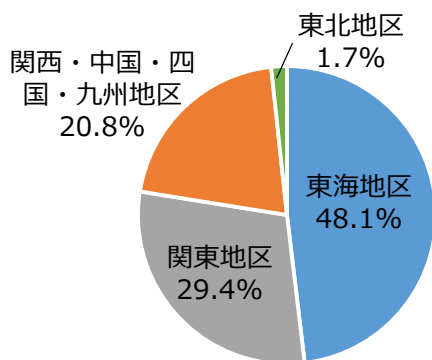


図1 2017年度 弥富RC地区別処理実績

### ■ 一年間の成果

2017年度においては、汚染土壌の9割以上（うち再利用可能な土58.4%、セメント原料32.9%）が再生可能な材料に生まれ変わりました（図2）。

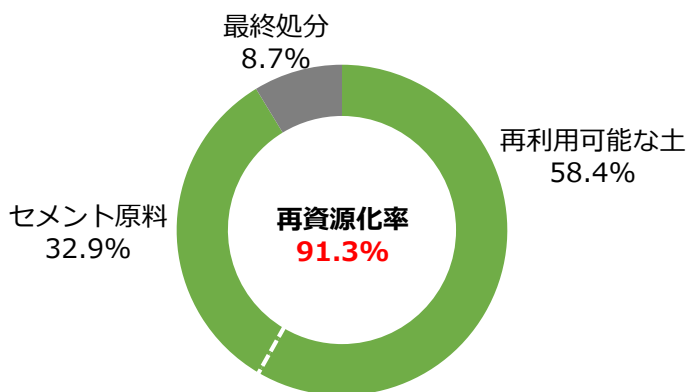


図2 2017年度 弥富RCの再資源化率



名古屋事業部  
弥富リサイクルセンター  
金子 高志



弥富RCの稼働により、当社の土壌汚染対策事業の洗浄処理能力が飛躍的に向上しました。それにより、全国の様々な汚染土壌が処理できるようになりました。弥富RCでは、各種機械設備の運転をマニュアル・半自動・全自動を切り替えることで、受け入れ処理困難であった汚染土壌を処理できるようになり、これまで以上に地球環境にも優しい処理を行っています。汚染土壌には、有害物質以外にも様々な成分が含まれ、また土の性状も砂や粘土等、同じ性状の土はありません。これらを1分1秒でも素早く、かつ安定処理するために、タイムリーなプラント運転と監視を行い、弥富RCを成長させていきます。

### 洗浄処理とは

汚染土壌の水洗い・ふるい分けを繰り返し行い、汚染が吸着濃縮している細粒分を分離・凝集沈殿させる処理方法です。洗浄処理した土壌・凝集沈殿物（脱水ケーキ）は、再生利用でき、地球環境に優しい処理です。

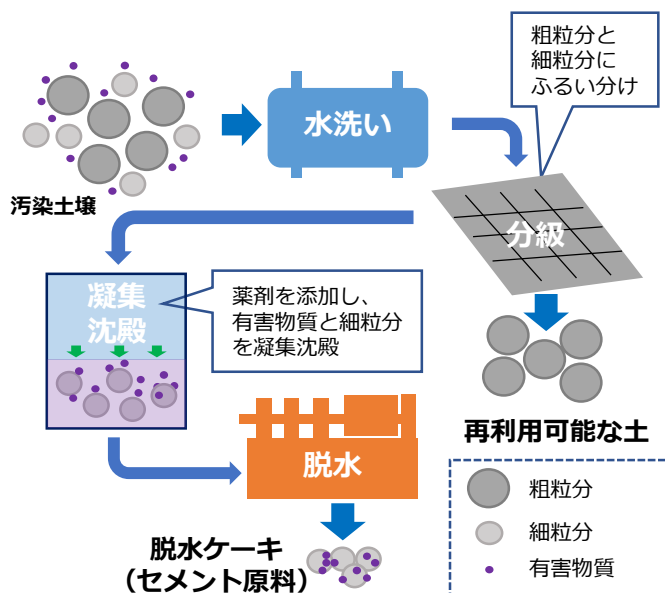


図3 洗浄処理概略図



# 特集 新規事業の芽 ブラウンフィールド再生流動化事業

「ブラウンフィールド」とは、有害物質による土壤汚染の存在、もしくは存在の可能性により土地の売却や再利用ができずに放置され、遊休化した土地のことを指します。ブラウンフィールドによる問題としては、汚染された土地の浄化が進まずに汚染土壌が放置されたり、再開発や土地の有効利用が阻害されるといったことが挙げられます。本特集では、ブラウンフィールド化した土地を取得し、再び土地活用や土地取引ができるようにする事業について紹介します。

## ■ ブラウンフィールドが生じる原因

主に、土地の値段に対して対策費用が高くなってしまふ場合や汚染の除去を求められても完全浄化が困難な場合等にブラウンフィールドが生じてしまいます。



## ■ 事業スキーム

土壤汚染リスク対策の専門会社である当社と協業先企業が一体となってブラウンフィールド再生流動化事業を推進する、汚染土地専門の買取・再生スキームです。

### ダイセキ環境ソリューション

- ・汚染土壌調査、対策工事、コンサルティング
- ・コストキャップ保証等



### ・協業先企業・事業参画者・出資者

- ・JVへの資金提供やSPCへの私募優先出資による事業参画
- ・不動産仲介、開発事業コンサルティング等



### 土地所有者

- ・土壤汚染への対応能力がない
- ・汚染対策費資金負担が困難
- ・資金ニーズがあり早急に売却したい
- ・風評被害を懸念
- ・近隣社会・行政折衝等対応が不安
- ・環境リスクのある資産を手放したい

### JV (共同企業体) 又は SPC (特定目的会社)

- JV/SPCが以下項目を実施⇒土地の瑕疵を解消
- ・汚染土壌調査・土壤汚染対策工事・行政対応・諸手続
  - ・土地の用途に応じた開発工事
  - ・新たな事業者へ土地を売却・賃貸



### 土地購入者

- ・土壤汚染への対応能力がなくても大丈夫
- ・汚染の瑕疵を解消した状態で事業用地を取得できる
- ・拡散防止の場合でも、必要な措置を完了した上で事業開始できる
- ・汚染対策期間中の土地保有コストや対策費用の負担がない
- ・風評対策の心配がない

リスク負担を遮断

## ■ 当社の案件事例

山梨県で行ったプロジェクトでは、汚染されたままの土地を当社が取得し、追加調査による対策範囲の絞り込み、土地の活用方法を踏まえた土壤浄化対策を実施しました。さらに、土地購入予定者の意向を織り込んだ開発造成工事（開発道路工事、宅地造成、分筆等）を行った上で、土地を売却（一部賃貸）しました。



▲プロジェクト現場  
(敷地面積：約50,000m<sup>2</sup>、対策範囲：約23,800m<sup>2</sup>)



日本でも工場跡地等における土壤汚染が顕在化してきていますが、その多くは大都市部であり、なかにはブラウンフィールド化してしまうケースも散見されます。また今後、土壤汚染の顕在化が地方に広がっていくなかで、相対的に地価が安価である地方都市においては、大都市に比べてブラウンフィールド化してしまう可能性も高くなると考えられます。当社では、こうした問題に対してこれまで培ってきた技術とノウハウで浄化を行うということだけでなく、リスクコミュニケーションを含め、個々の状況やリスクに応じた対応と措置を講じることで、再び価値を生み出し社会に還元する再生流動化事業を積極的に展開していきたいと考えています。



事業推進部  
内藤 勝行

## Environmental management

## 環境マネジメント

環境保全を主要業務とする当社において、環境マネジメントは最重要課題であると捉えています。当社は、社会的に不要になったもの、負の環境影響を与えるものに対して工夫を凝らし、再び価値をつける新しい仕組み「環境リパリエストラクチャー」創造企業として、下記の環境方針を定めています。また、この方針のもと、事業活動により生じる環境影響を継続的に改善するシステムを構築し、ISO14001の認証を取得しています。

## 環境方針

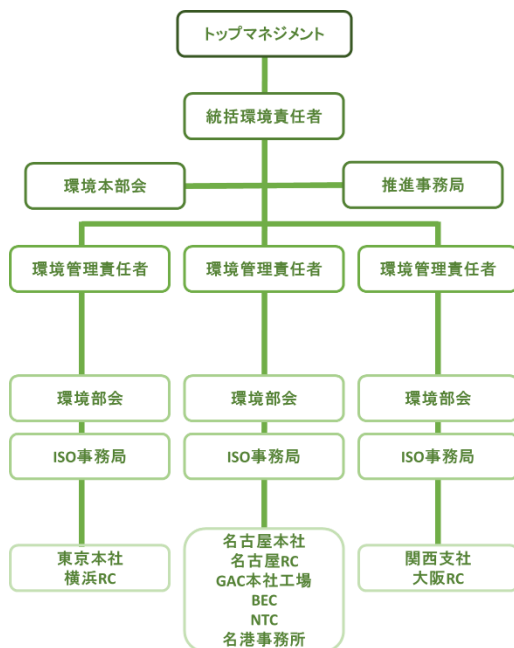
1. 地球温暖化の防止に資するため、当社の事業活動で消費するエネルギーで特に電気及び燃料の使用量の削減に努めます。
2. 土壌汚染調査、汚染土壌及び産業廃棄物の収集運搬・中間処理の作業を適正かつ安全に行うと共に、不必要なムダを改善して作業の効率化を図ります。
3. 当社で発生する廃棄物の抑制を図ると共に、受け入れた汚染土壌及び産業廃棄物のリサイクル率を高めるために処理技術の向上に努めます。
4. 土壌汚染調査、汚染土壌及び産業廃棄物の収集運搬・中間処理の中で、粉じん等の環境負荷の低減及び環境汚染の予防に努め、これらの継続的改善を図ります。
5. 環境側面に関する法規制の他、お客様とのお約束事項、及び当社が定める自主管理基準値を遵守します。
6. 当社及び当社に関連する組織の環境目的・環境目標を設定し、見直しを行います。

2006年5月15日 制定  
2016年3月15日 改定

代表取締役社長 二宮利彦

## ISO14001の管理体制と認証取得

Plan(計画) → Do(実行) → Check(評価) → Act(改善)のPDCAサイクルを効率的に回せる組織体制を組んでいます。



## ISO14001登録情報

## 2002年

(株) ダイセキ名古屋事業所の関連事業所としての認証登録 (JQA-EM2116)

## 2006年

東京本社、名古屋リサイクルセンター (RC)、横浜RC、関西支社を登録JQA-EM2116からJQA-EM5648に分割登録

## 2008年

大阪RCを登録

## 2009年

(株) グリーンアローズ中部 (GAC) 本社工場を当社関連事業所として登録

## 2013年

バイオエネルギーセンター (BEC) を登録

## 2016年

名古屋トランシップセンター (NTC)、名港事務所を登録

# Mass balance マスバランス

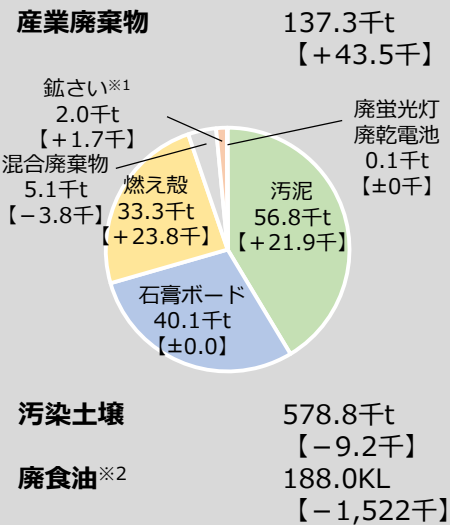
当社は、マスバランス（物質収支）を明らかにすることにより、事業活動に伴う環境負荷の把握と低減に努めています。



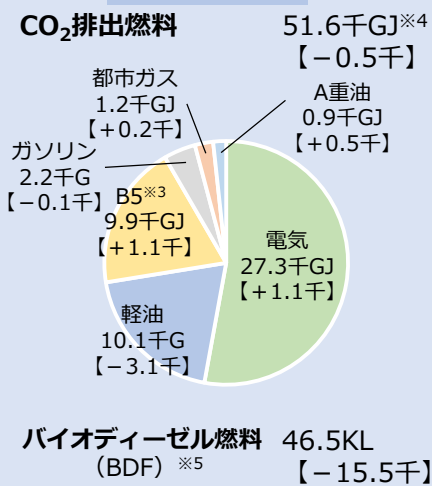
## 事業活動



### 搬入



### エネルギー



### 資源

工場用水	6,887m <sup>3</sup>	【-313】
水道水	9,305m <sup>3</sup>	【+955】
石灰	77,962m <sup>3</sup>	【+74,612】
メタノール	106.0KL	【-35】
その他原料・薬剤等	19.3t	【-6.3】

### 土壌汚染対策事業

汚染土壌	汚泥
混合廃棄物	鉢さい
燃え殻	

### 廃石膏ボード リサイクル事業

廃石膏ボード

### バイオディーゼル 事業

廃食油

### 蛍光灯等 リサイクル事業

廃蛍光灯	廃乾電池
廃バッテリー	

### 再資源化

再資源化率  
99.3%

セメント原料	626.3千t	【+83.3千】
建設資材	49.0千t	【+3.0千】
石膏ボード原料	30.5千t	【+1.5千】
地盤改良材原料	2.4千t	【-4.3千】
紙原料	3.7千t	【+0.3千】
バイオディーゼル燃料	478.6kL	【-120.4】
その他燃料	132.8kL	【-79.2】
その他リサイクル原料	94.2千t	【+94.0千】

### 最終処分

最終処分率  
0.7%

埋立処分	5.2千t	【-44.5千】
焼却処分	0t	【±0】

### 排出

CO <sub>2</sub>	2.9千t	【-0.1千】
-----------------	-------	---------

- ※1 鉄・ニッケル・クロム等の鉢物を精錬する際に生じた目的成分以外の融解物質。
- ※2 廃食油は有価で購入しているため、産業廃棄物に含まない。
- ※3 BDF5%・軽油95%の燃料。
- ※4 J=ジュール：エネルギーの単位。GJ=10億
- ※5 BDFは省エネ法を基にCO<sub>2</sub>ゼロカウント。

- ・【 】内は前年度比。
- ・2017年3月1日～2018年2月28日の集計。
- ・エネルギー種別発熱量は『エネルギー使用の合理化に関する法律施行規則』の換算係数に準拠して算出。
- ・東北支店、西日本営業所、(株)グリーンアローズ中部名港工場、(株)グリーンアローズ九州は除く。



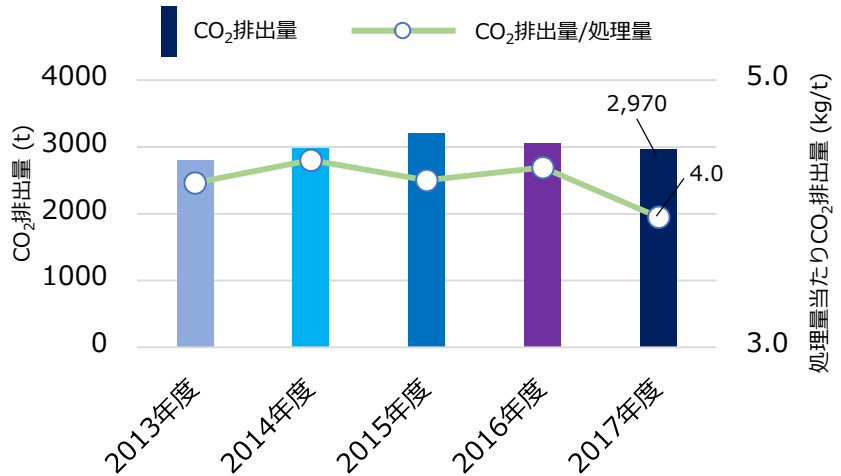
## Environmental measurement data

## 環境測定データ

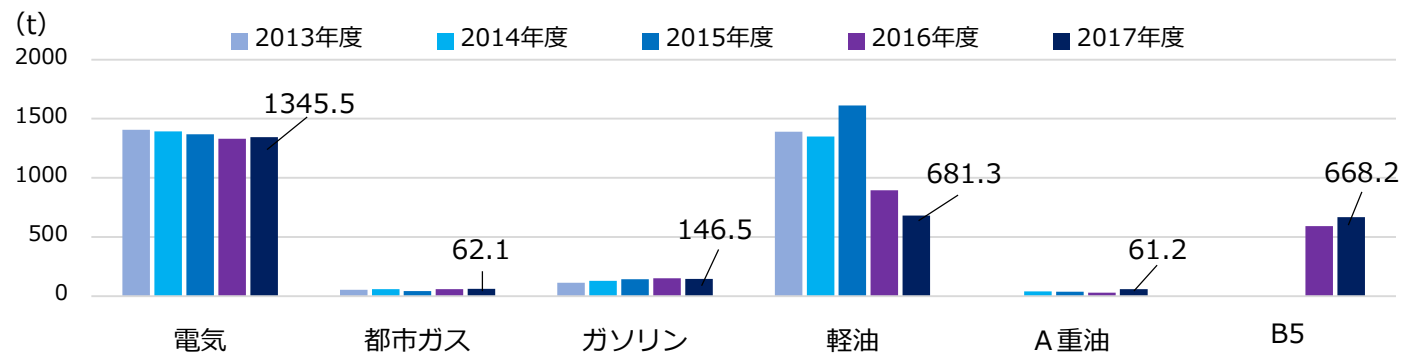
当社は、事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量を把握し、その削減に積極的に取り組んでいます。また、事業所別に環境データを測定し、環境影響を持続的に改善する指標としています。

事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量

2016年度までの4年間、処理量当たりのCO<sub>2</sub>排出量は4.4kg/t前後で安定していましたが、2017年度は4.0kg/tに減少しました。これは、汚染土壌の処理量が増加し、処理効率が上がったためと考えられます。

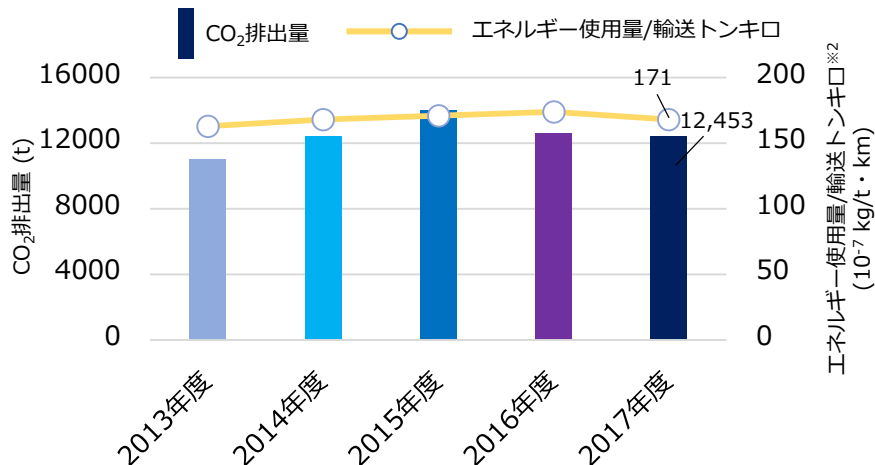
図1 事業活動に伴うCO<sub>2</sub>総排出量エネルギー別CO<sub>2</sub>排出量

2017年度のCO<sub>2</sub>総排出量は、前年度よりも約100t減少しました。また、当社が工場を操業する上で欠かさない資源である電気と軽油のうち、電気はこの5年間で同水準であったのに対して、軽油は前年度よりも約200t減少しました。これは、B5※1使用の促進により軽油のみの使用量が減少したためと考えられます。

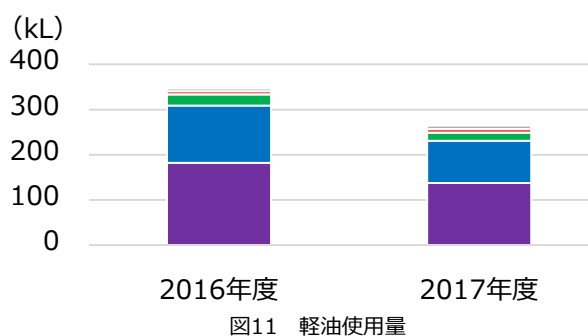
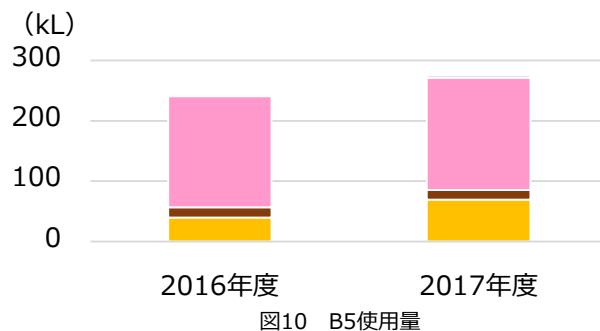
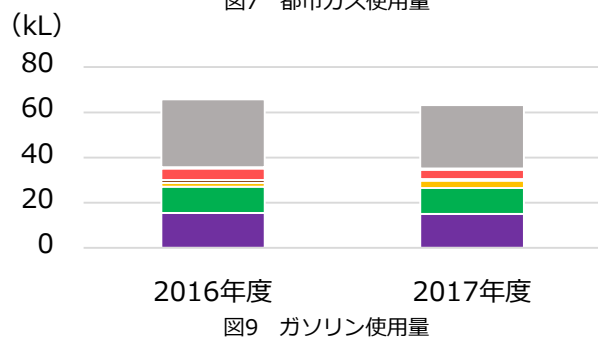
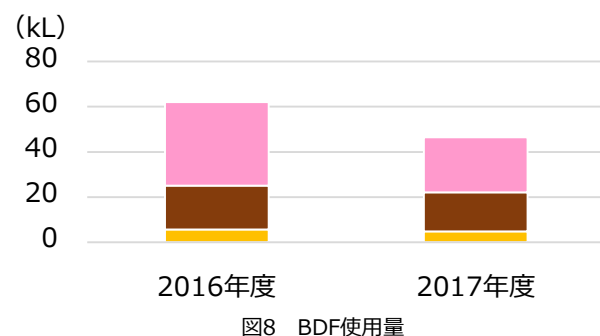
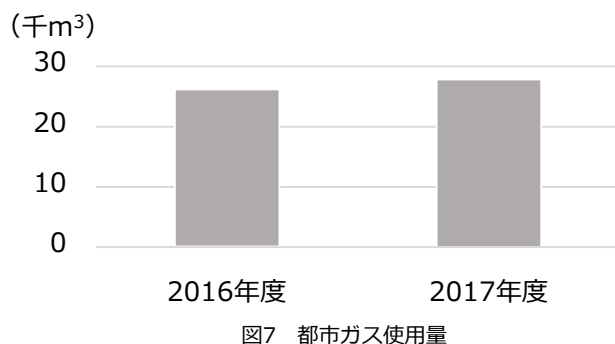
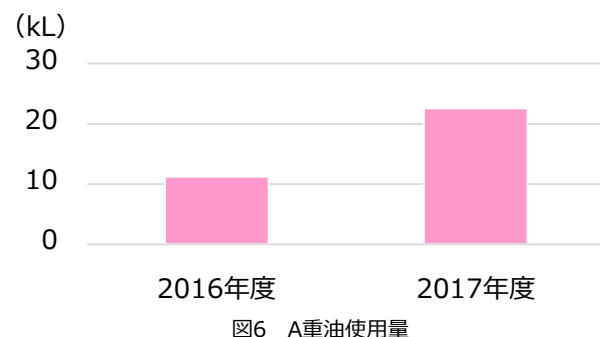
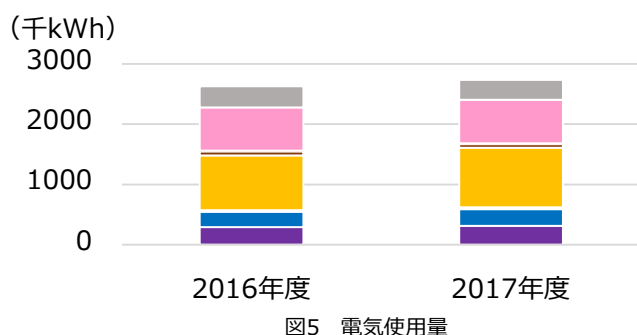
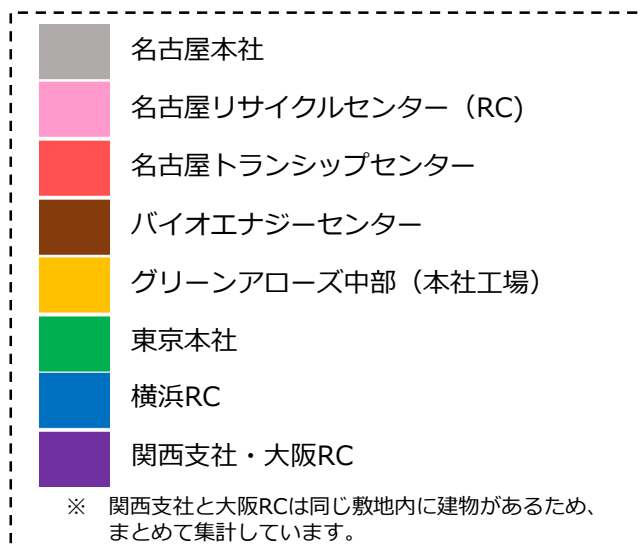
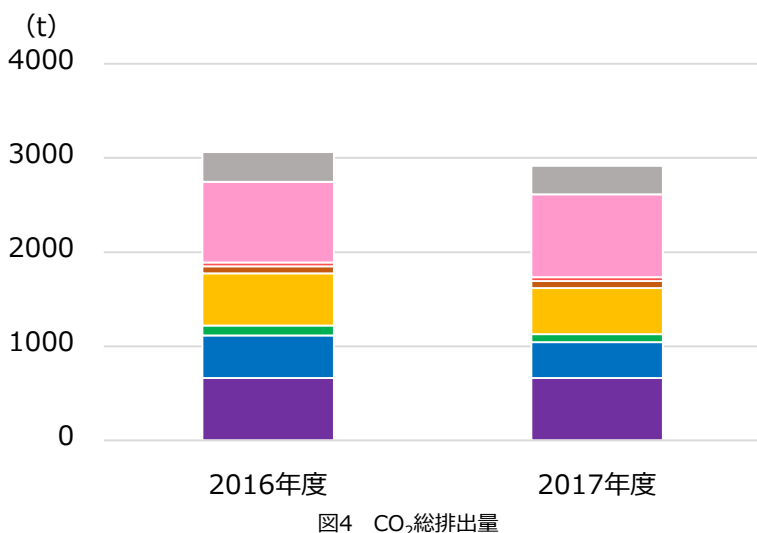
図2 エネルギー別CO<sub>2</sub>総排出量委託輸送に係るCO<sub>2</sub>排出量

当社委託の運搬業者が汚染土壌や産業廃棄物を収集運搬する過程でもCO<sub>2</sub>は発生します。これは当社が直接排出するCO<sub>2</sub>排出量の約4倍となっています。

この5年間で輸送効率に大きな変化はなく、170 (10<sup>-7</sup> kL/t・km) 前後で安定しています。

図3 委託輸送に係るCO<sub>2</sub>総排出量

エネルギー使用量/輸送トンキロ※2

事業所別CO<sub>2</sub>排出量とエネルギー使用量

## 排水水質データ（水質汚濁防止法に基づいた項目）

事業所		pH		BOD(mg/L)		COD(mg/L)		SS(mg/L)		n-Hex(mg/L)	
		基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値
名古屋RC	①		7.1		2		-		<5		<1
	②	5.8~8.6	7.4	160	2	-	5	200	11	5	<1
	③		7.1		1		-		<5		<1
横浜RC	①	5.8~8.6	7.6	-	-	130	<1	160	<5	5	<1
	②		7.9	-	-		30		23		1
大阪RC		5.0~9.0	7.5	600	<1	-	-	600	<5	5	<1

BOD：生物化学的酸素要求量 COD：化学的酸素要求量 SS：浮遊物質量 n-Hex：ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）

## 大気汚染物質データ（大気汚染防止法及び土壌汚染対策法に基づいた項目）

事業所	カドミウム及びその化合物 (mg/m <sup>3</sup> N)	塩素 (mg/m <sup>3</sup> N)	塩化水素 (mg/m <sup>3</sup> N)	ふっ素、 ふっ化水素及び ふっ化ケイ素 (mg/m <sup>3</sup> N)	鉛及び その化合物 (mg/m <sup>3</sup> N)	窒素酸化物 (volppm)
許容限度	1	30	700	10	20	250
名古屋RC	<0.05	<1	<2	<1	<0.002	<13
横浜RC	<0.001	<0.2	<3	<1	<0.01	5
大阪RC	<0.05	<1	<2	<1	<0.002	<13

事業所	1,2-ジクロロ エタン (volppm)	ジクロロ メタン (volppm)	水銀及び その化合物 (volppm)	テトラクロロ エチレン (volppm)	トリクロロ エチレン (volppm)	ベンゼン (volppm)
許容限度	-	-	-	-	-	-
名古屋RC	<1	<1	<0.002	<1	<1	<1
横浜RC	<0.5	<0.5	<0.005	<0.5	<0.5	<0.1
大阪RC	<1	<1	<0.002	<1	<1	<1

## 目標と実績

当社では、各テーマに目標を設定し、環境負荷低減に取り組んでいます。2017年度の目標と実績は下表の通りです。

テーマ	対象	2017年度			取り組み内容
		目標	結果	判定	
省エネルギー・ 省資源による 地球温暖化の防止	電気使用量(処理量当り)	1.5%削減	11.3%減	○	不要な照明の消灯 作業の効率化
	化石燃料使用量(処理量当り)	1.5%削減	2.7%減	○	BDF使用 アイドリングストップの推進
	CO <sub>2</sub> 排出量(処理量当り)	1.5%削減	16.0%減	○	BDF使用 作業の効率化
廃棄物の抑制	リサイクル率(入荷量当り)	83.75%	99.4%	○	分別の徹底
環境汚染の予防	粉じんの苦情件数	0件	0件	○	監視、清掃の実施
	現場作業における過失事故件数	0件	0件	○	安全管理の徹底
循環型社会に貢献	グリーン購入率	82.0%以上	84.3%	○	購入先、購入品の見直し・変更

## Efforts of environmental load reduction

## 環境負荷低減の取り組み

当社の各工場における環境負荷低減への取り組みを紹介します。

## リサイクルセンター

各リサイクルセンター（RC）では、汚染土壌や産業廃棄物を扱うため、洗浄水の漏洩、汚染土壌漏洩、大気汚染、騒音等の防止対策に取り組んでいます。

## 水質管理

## 洗浄水の漏洩防止策

洗浄処理で扱う洗浄水を敷地外に漏洩させないため、設備や道路の境界にU字溝を設けています。また、水処理工程において、飛沫が隣接する敷地に飛散することを防止するため、例えば弥富RCでは、敷地境界線の一部にフェンスを設置しています。

## 排水のpH調整

セメントリサイクル等の処理工程では石灰をしますが、例えば横浜RCでは、場内に降った雨水排水に石灰が溶け出すことによりpHが上昇した場合の措置として、雨水中和装置を設置しています。

## 水資源の有効活用

名古屋RCや弥富RCでは、場内に降った雨水を集め、洗浄処理に有効利用しています。

## 水質調査

場外に排水基準を超過する水を排水しないよう、定期的に排水の水質調査を実施しています。



▲雨水中和装置（横浜RC）



▲水質検査の様子（横浜RC）



▲ダンプ荷台のシート

## 汚染土壌管理

## 汚染土壌漏洩防止策

汚染物質の地下への浸透を防ぐため、床面はコンクリート舗装されています。また、例えば名古屋RCでは、汚染土壌の漏洩を防ぐため、敷地境界線に堰堤を設けています。

## 汚染土壌拡散防止策

ダンプ退場時には、荷台にシートを掛け、洗輪場でタイヤを洗うことを義務づけています。



## 大気汚染防止策

### 粉じん対策

ミストカーテンの導入及び清掃車での場内清掃により、粉じんの拡散防止に努めています。特に仙台RCでは、高性能な集じん機を設置し、粉じんの発生量を抑制しています。

### 臭気対策

臭気の強い汚染土壌が搬入された場合には、消臭剤入りミストを噴霧し、場内の臭気を抑えています。

### 揮発性有機化合物（VOC）の漏洩防止策

VOC含有の汚染土壌は密閉構造で負圧管理できるヤードに搬入されます。また、揮発させたVOCを吸着設備に吸引させ、外部への飛散を防いでいます。

### CO<sub>2</sub>排出量の削減

昨年、大阪RCでは、燃費の優れた油圧ショベル及びホイローダーへの入れ替えを行いました。これによりCO<sub>2</sub>排出量を削減することができました。また、名古屋RCと弥富RCでは、一部の重機にBDFを使用することにより、CO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。



▲ミストカーテン（大阪RC）



▲集じん機（仙台RC）



▲二重テント壁（大阪RC）

## 騒音対策

大阪RCでは、建屋内の防音シートを二重にすることにより、騒音を遮蔽・吸音させています。また、日頃から作業員による設備の見回りや適切な運転を心掛け、騒音の発生防止に努めています。



汚染土壌・産業廃棄物を適正に取り扱う中間処理施設として、環境保全に取り組み、受入土壌のリサイクル率の向上に努めています。環境負荷の低減においては、設備更新及び改修等のハード面とオペレーターや作業員の教育や安全意識向上等のソフト面が融合して、初めて成り立つものかと思っています。大阪リサイクルセンターでは、日頃から臭気、漏洩、騒音・振動及び粉じん等の場内点検を行い、適正なセンター管理を行っております。事業としての汚染土壌・廃棄物の処理で終わりではなく、今後も環境に配慮し、循環型社会へ貢献していきたいと考えています。



関西事業部  
大阪リサイクルセンター  
胡桃沢 竜也

## グリーンアローズ中部・九州

グリーンアローズ中部（GAC）本社工場とグリーンアローズ九州（GAK）では、廃石膏ボードを粉砕し、再生石膏粉と剥離紙に分離しています。廃石膏ボードを粉砕する際に発生する粉じんの飛散防止を徹底しています。

### 大気汚染防止策

#### 粉じんの飛散防止策

再生石膏粉をトラックに積載する際、粉じんが飛散しやすいため、集じん機を設置し建屋内を負圧にしています。さらに、前面にミストカーテンを設置することにより、飛散量を大幅に削減しています。昨年GAKでは、集じん機を増設したことにより、粉じんの飛散量削減だけでなく、ミストカーテンに使用する水の使用量削減にも繋がりました。また、カーテンや動作の早いシートシャッターを導入したことにより、建屋出入りの際に飛散する粉じんを削減しました。さらに、場外に粉じんを飛散させないための工夫として、高さのある防じんネットフェンスを設置しています。



▲集じん機（GAK）

#### CO<sub>2</sub>排出量の削減

昨年、GACでは最大積載量25.1tの大型トレーラーを導入しました。従来のダンプの約2.5倍の積載量があるため、輸送の効率化によるCO<sub>2</sub>排出の削減が可能となりました。



▲新たに購入した大型トレーラー（GAC）



▲エコアクション認証・登録証

### エコアクション21の認証取得

エコアクション21は、環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステムであり、組織や事業者等が環境への取り組みを自主的に行うための方法を決めています。2017年度、GAKではエコアクション21の認証を取得しました。



(株) グリーンアローズ九州  
一瀬 悟

GAKではエコアクション21の認証を取得し、環境負荷低減目標をプランに落とし込みチーム全体で改善を進めています。特に粉じん飛散防止対策として、集じん機増強やシートシャッター改修、防じんフェンス設置や粉じん発生源の密封等継続して対策を実施し、その大半を内製工事で行う等コストも最小限に抑える工夫をしています。昨年は熊本地震に伴う石膏ボードの許可を取得して処理も行っており、今後も環境社会貢献に向けリサイクル推進と安全強化、環境負荷低減を積極的に進めてまいります。



## 名古屋トランシップセンター

名古屋トランシップセンター（NTC）では、低濃度PCB含有機器の一時保管や抜油作業を行っています。有害なPCBの漏洩防止に取り組んでいます。



▲エポキシ樹脂で塗装された床（NTC）

### PCB漏洩防止策

PCBの地下浸透を防ぐため、建屋内の床はPCBを浸透しないエポキシ樹脂で塗装しています。そして、建屋外にPCBを漏洩させないためにU字溝を設けています。さらに、集じん機で建屋を負圧にすることによって、大気中へPCBが飛散しないようにしています。また、定期的に排気口と地下水のPCB濃度を調査し、漏洩・飛散がないかを確認しています。



資源循環事業部  
平井 政人



東海地方で数少ないPCB廃棄物の積替保管施設として、少ない保管台数の顧客にも対応し、環境保全にも留意しております。PCBという有害物質の特性上、環境中に飛散させることは許されず、PCBの収集運搬と積替保管には、定期的な教育や演習等を通じて、課員の意識向上と意思疎通をはかっています。事故がPCBの飛散につながるという観点から、センター内の工場点検・クレーン点検・玉掛用具の点検等、安全面にも配慮しております。

## バイオエナジーセンター

バイオエナジーセンター（BEC）では、廃食油からバイオディーゼル燃料（BDF）を製造しています。廃食油や薬品には独特の臭いがあるため、臭気を場外に漏らさない取り組みや、輸送・製造時に廃食油を漏洩させない取り組みを行っています。

### 臭気管理

毎日社員が場内のパトロールを実施し、臭気漏れがないかを確認しています。また、半年に一度有機溶剤の作業環境測定を実施し、臭気に問題がないことを確認しています。

### 油の漏洩防止策

万が一の状況を考え、敷地境界線やタンクにはU字溝や防油堤を設置しています。場内の排水はすべて油水分離槽に入るようになっており、一週間に一度、点検を実施しています。



▲臭気パトロールの様子（BEC）



資源循環事業部  
絹川 雄也



BECでは、日々廃食油を回収してBDFを製造し、お客様へ納入しております。常に油を扱っておりますので、植物由来といえども外部へ漏洩しないよう、センター内はもとより、回収先や納入先においても常に注意しております。また、センター内の車両や重機、道具類等の整理整頓が行き届いていることで、不要な作業が削減され、電気や燃料の低減に繋がっております。

## Social contribution activity

## 社会貢献活動

当社の事業は環境やリサイクルに関わるものが多く、社会貢献に直接的に繋がっていると考えています。同時に、事業以外においても、様々な形で社会貢献活動に取り組んでいます。地域社会の一員としての自覚を深め、社会貢献活動をより一層広げていきます。

### ■ 藤前干潟クリーン大作戦

藤前干潟は、伊勢湾の最奥部に位置する日本最大級の渡り鳥渡来地であり、渡り鳥たちの休息と栄養補給の大切な中継地になっています。しかし、河川上流から運ばれた空き缶やペットボトル、プラスチック製品等のゴミが干潟周辺に漂着し、生態系に悪影響を及ぼしかねない状態にあります。

名古屋本社では、2011年から藤前干潟清掃活動への参加を社員へ呼びかけるとともに、参加する社員に対して昼食や熱中症対策の飲み物を提供し、活動を支援しています。



私は入社以降、本活動には毎回参加しており、活動を重ねるごとに綺麗になっていく干潟の姿を見ると、参加して良かったなと感じます。また、以前の様に自然豊かな環境へと戻り、そこで新たな生命が“芽ぐむ”ことに繋がれば嬉しい限りです。会社側が本活動への支援をしていただけることは非常に有難いことですので、今後も参加したいと思います。



事業推進部  
原田 潤

### ■ 大阪マラソン「クリーンUP」作戦

毎年秋の大阪マラソン開催前の1週間、大阪市の主催により、きれいな街づくりのための清掃活動が行われています。大阪市が各企業、団体や一般市民に呼びかけ、昨年は約8万人が参加しました。

関西支社では、毎年参加者を募り、この活動に参加しています。2017年秋の清掃では、関西支社から14名が参加し、事務所から近い千島公園の清掃を行いました。





## 工場周辺の構外清掃

全国各地の拠点において、社員が定期的に工場や事業所周辺の清掃活動を行っています。日頃から私たちが使う公共の場所を清掃することで、地域貢献への意識を高めています。



▲名古屋本社での活動



▲グリーンアローズ中部 名港工場での活動

## 古切手収集

郵便物に貼られている切手を回収しています。古切手は、日本赤十字社を通じて日本キリスト教海外医療協力会へ送られます。古切手約1kg（5,000枚分）が約1,900円で収集家に販売され、海外医療援助の人材派遣費用に充てられています。



▲古切手収集箱

## エコキャップ運動

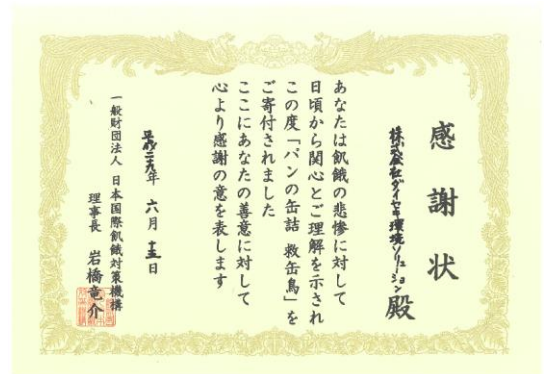
ペットボトルのキャップは、リサイクルできる有価物です。当社では、ペットボトルのキャップを回収し、NPO団体 エコキャップ推進協会を通じて、医療支援や発展途上国へのポリオワクチンの寄付、障害者支援、子供たちへの環境教育といった様々な活動に貢献しています。

2017年には9,589個のキャップを協会に提供し、これまでの累計では63,633個提供しています。

## 救缶鳥

2014年から株式会社パン・アキモトの飢餓対策支援活動「救缶鳥プロジェクト」に参加しています。救缶鳥プロジェクトとは、賞味期限3年の「パンの缶詰」を備蓄から2年後、賞味期限を1年残して株式会社パン・アキモトが回収し、義援物資として、NGOを通じて飢餓に苦しむ国々へ届けられる活動です。当社では、2017年1月にパンを海外へ送ることができました。この支援により、一般社団法人 日本国際飢餓対策機構から感謝状をいただきました。

今後もこの活動への参加を続けることで、世界の飢餓対策支援に貢献していきます。



▲（一社）日本国際飢餓対策機構からの感謝状



▲救缶鳥の仕組み

出典：株式会社パン・アキモト ホームページ

[http://www.panakimoto.com/products\\_kyucancho/](http://www.panakimoto.com/products_kyucancho/)

## Interview

## 外部インタビュー

当社は、2016年の熊本地震の際、一般社団法人日本災害対応システムズ (JDTS)\*の会員として、災害廃棄物の処理に尽力されている地元の廃棄物処理業者を支援しました。この度、膨大な災害廃棄物の処理に多大な貢献をされた地元企業の有価物回収協業組合 石坂グループの石坂孝光様にインタビューを行いました。



有価物回収協業組合  
石坂グループ 理事長  
石坂 孝光 様

## 有価物回収協業組合 石坂グループ 様

有価物回収協業組合 石坂グループ様は、ガラス・ペットボトル・金属・古紙のリサイクル事業や廃棄物処理業を行われています。創業以来30年にわたり、地域社会と密着した廃棄物の再資源化と適正処理に取り組まれており、熊本県内では第一号となる「優良事業所」の認定を取得されています。

### 熊本地震の際、JDTSと連携された理由について教えてください。

熊本地震の災害廃棄物を地元企業で適正かつ迅速に処理したかったのですが、量が膨大だったため、災害廃棄物の処理実績がある専門業者で構成されているJDTSに協力していただきました。

### 当社が熊本地震の災害廃棄物処理に与えた影響にどのようなことがありましたか。

貴社のもつ運営全般のノウハウの提供や、多くの「災害廃棄物受け入れ先」の確保を行っていただきました。おかげさまで、膨大な災害廃棄物を適正かつスムーズに処理できました。

### 今後、当社に期待されることをお聞かせください。

近い将来発生すると考えられている南海トラフ地震では、広域にわたり膨大な災害廃棄物が発生すると予想されます。それらの災害廃棄物を適正かつスムーズに処理するためには、全国の廃棄物処理業者の協力が必要となります。そこで、貴社にはより大きな全国の廃棄物処理業者のネットワークを構築して欲しいです。

また、貴社グループは産業廃棄物業界では、いち早く上場した企業であり、この業界を今後も引っ張ってもらい、「日本になくてはならない企業」になって欲しいと考えております。

\* 2016年2月、阪神淡路大震災や東日本大震災から学んだ知識・経験を活かし、効率的な災害廃棄物処理方法や輸送システムの構築を目的に、廃棄物処理業者を中心とした6企業にて設立。現在は新たに6企業が加わり、12の企業で構成される。2016年10月には、熊本地震の災害廃棄物の処理活動を評価され、環境大臣より表彰された。

## Friendly working environment

## 働きやすい職場づくり

社員は会社の財産と考えています。当社では、社員の健康を第一に、そして個人の能力を十分に発揮して働くことができる職場づくりを目指して、様々な制度の整備に取り組んでいます。

## 働き方改革

当社では、各自のライフスタイルに合った働き方を支援するため、社員の意見や要望を取り込みながら現在までに以下のような制度を整備しています。今後も社員一人ひとりが働きやすい環境づくりを行っていきます。



▲デスクに帰宅時間を宣言！

## 個人の働き方を支援する各種制度の例

フレックスタイム制	コアタイムを10:00～15:00とし、適用される社員が出退社時間を柔軟に決定する制度です。
モバイル機器の活用	ノートPCを貸出し、外部から社内ネットワークにアクセスできるようにすることで外出先で作業を行うことができます。
時間有給休暇制度	時間単位で有給休暇を取得できる制度です。
ノー残業デー	ノー残業デーを社員が任意に設定します。日頃から定時帰宅を励行しています。
一定時間を超える残業の禁止	36協定違反となる残業を禁止しています。
長期連続休暇制度	有給休暇を付与されている全社員に3～5日間連続で有給休暇を取得するよう推奨する制度です。



長期連続休暇制度を利用し、入社1年目で6日間アイスランドに旅行に行きました。制度を利用しやすい雰囲気、働き方改革を進めていることを実感しました。仕事もプライベートも充実した日々を過ごせています。



名古屋事業部  
森 絵美菜



## 社内インターンシップ制度

当社では、年に1度、希望者が他部署での業務を体験する社内インターンシップ制度を設けています。他部署を経験することで、新たな発見や普段の自分の業務との関わりを知ることができます。

(例)

通常業務では分析課の人が・・・



営業課を経験できる！





## 社員研修

新入社員研修は約3週間のプログラムで行われています。事業内容の理解を深めるため、各事業所の担当者が講師となり、実際の現場を経験しながら研修を行っています。また、社会人としての心構えを学ぶために、「マナー講座」や外部研修である『7つの習慣®』を基とした「ディスカバリー研修」も取り入れています。その他、役職に応じた研修の実施や本人の希望による外部研修への参加支援も行っています。

※ スティーブン・R・コヴィー博士が組織変革・自己変革を目的に考えた習慣。リーダーシップ開発トレーニングとして研修化され、多くの企業で導入されている。



▲ディスカバリー研修

## サークル活動

会社として、様々なサークル活動を支援・推奨し、社員の健康づくりや社員間の交流をサポートしています。



▲スキーサークル  
【雪うさぎ】



▲ゴルフサークル  
【悠雄会】



▲サイクリングサークル



▲ボーリングサークル

## ブラザー・シスター制度

新入社員とそのブラザー・シスターに任命された年齢の近い先輩社員が交流する制度です。新社会人としての悩み等を相談しやすい関係を作ることを目的としています。普段の業務では接する機会の少ない他部署の先輩社員がブラザー・シスターとなることで、他部署の業務や自部署との関わりの理解にも繋がっています。会社は、ブラザー・シスター間での積極的な交流を支援するため、補助金を支給しています。



普段の業務では直属の上司に仕事面でのサポートをいただくのに対し、ブラザー・シスターとなった先輩社員にはプライベートを含めた相談ができる等違う観点でのサポートをしていただけます。数ヶ月前まで学生であった私にとって、社会に出てからのギャップは大きなものでした。この時期に、年次の近い同性の先輩社員に公私問わず相談させていただけることで、様々な不安を解消し、仕事に対してより前向きな姿勢で取り組むことができていると感じています。普段自分では訪れることのできないようなお店に入れるのも魅力の一つですね。

(先輩社員)  
東京事業部  
池田 あんず



(新入社員)  
東京事業部  
大野 晴

私も後輩として受けたこの制度はとてもよかったと思っていますが、先輩の立場になっても、フランクに新入社員の皆様とお話できる機会はいいですね。この制度もひとつの機会としてざっくばらんに疑問、不安、希望等を話してもらい、仲間として早く打ち解け、やりがいを持って仕事してもらえればと思っています。そして大野さんがまた、会社にいい雰囲気を作ってくると嬉しいです、私自身も新社員の方とお話することで気づかされるのが沢山あります。





### ビアバスト

3ヶ月に一度、ビアバストという交流会を設けています。役職や所属に関係なく全社員が参加できるため、普段の業務では接することのない社員と交流したり、お互いの近況を共有したりすることができます。



▲ビアバストの様子



環境分析部  
福永 聡子

ビアバストの良い所の1つは、お会いすることで名前と顔が一致することだと思えます。普段の業務では、メールや電話での関わりはあるが対面する機会がない方もいます。ビアバストで相手の顔を知ると、距離が縮まり、次回の仕事から気持ちの面で良い影響が生まれます。部署に限定されず、近い距離でコミュニケーションを取ることができる有意義な時間です。また、仕事だけでなく、プライベートまで話が広がるため、様々な方と様々なことを話すことができ、良い刺激となっています。

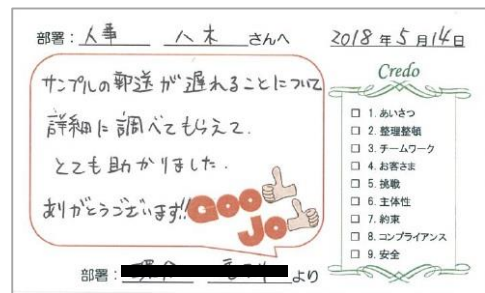
### Family Day企画

社員や協力会社の社員のお子さんを会社に招待し、科学実験の体験や工場見学を通じて当社を知ってもらう企画「Family Day」を毎年開催しています。BBQや花火観賞も行い、親子や社員同士の交流を深めています。



### Good Jobカード

同じ社内でも働いていても感謝の気持ちを伝えるのは難しいことです。しかし、どんな些細な感謝でも受け取る側にとっては大きな励みとなります。社員同士の行動について、心温まるサポートを受けて嬉しかった、クレドに沿った行動を目にした等の事例をカードに書いて渡し、相手に感謝の気持ちを伝えるようにしています。



▲早速受け取った新入社員の八木さん



▲Good Job Card

# 特集 繋がり意識向上の芽

## 本社移転への思い

2018年秋の移転を目指し、社内では様々な準備が進められています。本特集では、移転の経緯や新本社移転に期待することを紹介します。

### 移転の目的と副社長の思い



取締役副社長  
山本 浩也

2002年から現本社のオフィスで働いており、私が当社に赴任した当時はプラント部門や分析部門を含めて十数人の組織でした。オフィスの規模は、現在の半分ほどでオフィス内に打合せスペースも確保できるぐらいでした。そこから事業を拡大するとともに、社員数は増えていき、一部部門を本社オフィスから移転させる対応をとってきました。しかし、現オフィスの定員も限界に迫っていることに加えて、本社機能が複数拠点に分かれていることによるコミュニケーションロスや意思決定スピードの低下等が起きていることから本社移転を決めました。また、本社移転は、VISION2025を達成するための重要な施策となります。社員の皆さんが1つのチームとなり、会社としてクリアすべき課題を解決するための移転にならなくてはなりません。このために、全社的に人間関係をより密に築いていって欲しいです。新本社では、コミュニケーションが活発になる仕掛けや昼食をみんなで食べられるスペースを企画しています。このような新しい環境の新本社から様々な事業や組織の新しい芽が出てほしいと願っています。



▲現名古屋オフィス

### 社員全体が一つのチームとなり、VISION2025を達成するためのオフィスをつくるために

フリーアドレスを基本にして、ABW (Activity Based Working)の考え方を取り入れることで、多様な働き方が実現できるオフィスを検討しています。

#### フリーアドレス

- ・ オフィスで、自席が固定されていない。
- ・ スペース効率化によるコストの削減が主な目的です。

#### ABW

- ・ 業務や気分に応じて働く場所や時間を選ぶ。
- ・ オフィスの多様な場を用意する。
- ・ ワーカーの生産性や働きやすさの向上を目指す。

↑  
新本社



## 働く『場』を限定しないからこそ実現できる多様なワークスペース レイアウト検討は、新しい働き方の種まき作業

多様なワークスペース例



リフレッシュ席



集中スペース



立ち会議



オープン討議

当社の風土に合わせ、効果的な仕組みを選択

コミュニケーションによるチーム力

一人ひとりの多様な能力の発揮

心身共に健康な状況

様々な効果生まれ、働きやすいオフィスとなるよう鋭意検討中！

### ■ 若手社員が本プロジェクトで活躍中！！

移転プロジェクトのメンバーに若手社員や女性社員を加えることで、若手や女性の視点を生かした働きやすい環境創りを目指しています。



VOICE

総務部

伊藤 健二（入社5年目）

社員が働くオフィスも狭義での「環境」と捉え、現オフィスの問題点等を解決できるレイアウト、仕組みを検討していきたいと考えています。新オフィスでは、社員の皆さんが働いている姿から、検討した仕組みがしっかりと「芽ぐむ」のを実感したいです。



VOICE

総務部

金澤 野々花（入社2年目）

新しいオフィスでは、広いスペースを有効活用し、それぞれにあった働き方ができる仕掛けを検討しています。また、所々でコミュニケーションの芽が生まれるような明るいオフィスを目指し、移転後の自分や仲間の働く姿を想像しながら取り組んでいます。



## Safety and health

# 安全衛生管理

当社は、『安全は、すべてにおいて優先する』を事業活動における基本理念とし、社員一丸となって事故の防止、労働災害・健康障害ゼロに向けた安全衛生管理に取り組んでいます。

### 安全会議

以前は一部の役職者のみが参加対象者でしたが、現在では若手の社員も対象に加えることにより、社内全体に安全に対する意識が広がるよう取り組んでいます。

### 安全研修

労働災害をなくすための手段として、安全研修を実施しています。中でも、2016年度からは新人に対する研修に力を入れています。過去の労働災害に関する事例の学習や重機の乗車体験を行い、どこに危険が潜むのかを入社後すぐに学ぶことにより、安全に対する意識の基礎作りをしています。



▲油圧ショベル運転席の死角を確認する新入社員

### 接近検知機

リサイクルセンターでは、多くの重機が使用されており、作業員の安全確保が重要課題です。そこで、ミラーや目視等の確認に加え、2014年より「接近検知機」も試験的に導入しました。現在では磁気式やカメラ式等各種探知機を全社的に導入し、作業員の安全を守っています。

### 高所作業対策

2015年度に（株）グリーンアローズ中部、2016年度に（株）グリーンアローズ九州で導入された高所作業における落下防止システムを、昨年オープンした弥富リサイクルセンターでも導入しました。弥富リサイクルセンターでは、ヤードの入場口・退場口のそれぞれに設置することにより、トラックへのシート及びかけ外しをスムーズに行うことができ、安全性及び作業効率を高めることができました。



▲落下防止システム

### 「もの」の立て掛けの禁止

2016年、立て掛けたふるい機の網が社員の足の上に倒れて怪我をするという事故がありました。二度と同じような事故が起きることのないよう、「もの」の立て掛けを全社で禁止し、やむを得ない場合は倒れないように固定することをルール化しました。このように過去の事故を振り返り次に生かすことで、事故の芽を摘み取るようにしています。



### 「安全文化の形成こそ事故ゼロへの道」

社員全員の安全を守るためには一人ひとりが安全に対するの共通意識を持って行動をとることが大切です。それを定着させることによって安全文化が形成されます。文化は育った環境や関わる人間によって形成される価値観のようなもので、1年や2年で作られるものではありません。日頃からお互いに呼びかけを行い、長い時間をかけて浸透させていくことで安全文化を作っていこうと思います。



安全対策室  
前村 辰二



▲2017年度安全啓発ポスター



## 東海市危険物安全協会から団体表彰

今年4月、資源循環事業部BDF課が東海市危険物安全協会より危険物を取り扱う模範団体として評価され、団体表彰を受けました。



▲東海市危険物安全協会 よりいただいた表彰状



BDF課は立ち上げから5年間、課のメンバー全員で責任を持って安全対策の努力を続けてまいりました。そのおかげもあり、現在まで無事故で事業を続けることができています。今回そんな私たちの努力が評価され、このような表彰をいただくことができたことを大変嬉しく思います。

課立ち上げ当時、私は入社数年で経験が浅く、液体の危険物を扱う知識が少なかったのでBDF事業の安全対策管理について考えることはとても大きな課題でした。しかし、様々な方から頂いた知識と、各メンバーとの入念な話し合い等により事業の進行と同時並行で徐々に安全対策管理をかたちにすることができました。

安全対策は全員で意識しないと成り立たないものだと思います。今後も私たちの作り上げた安全意識が新入社員や協力業者の方に漏れなく浸透できるように教育や呼びかけに尽力していきたいと考えています。また、定期的な安全部会での事故事例の確認や業務引継ぎ時の情報共有等を行うことで常日頃から安全意識のふんどうしを締め直すような機会を作り、これからはしっかりと安全対策に取り組んでいきたいと思っています。



資源循環事業部  
松野 孝治

## 2017年度の実績

2017年度においては、休業災害は1件でしたが、グラフの強度率からも読み取れるように重大事故をゼロにすることができました。度数率は、前年度より低減することができましたが、同事業規模（100～229人）の全産業の値を上回りました。今後も労災ゼロに向け、全社で取り組んでいきます。

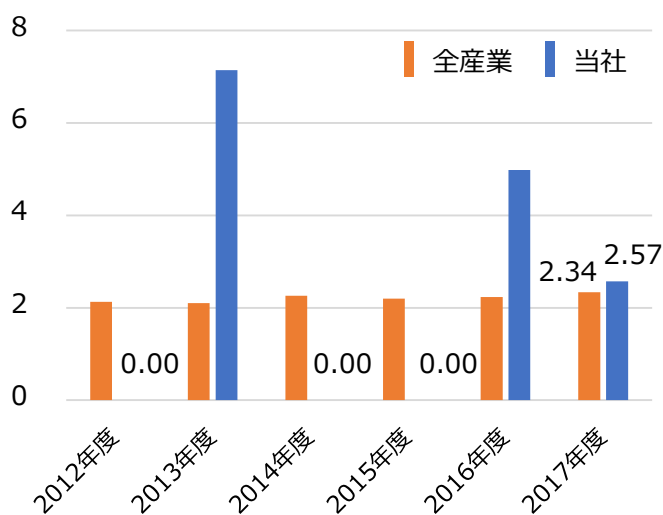


図1 度数率※1の年度別推移

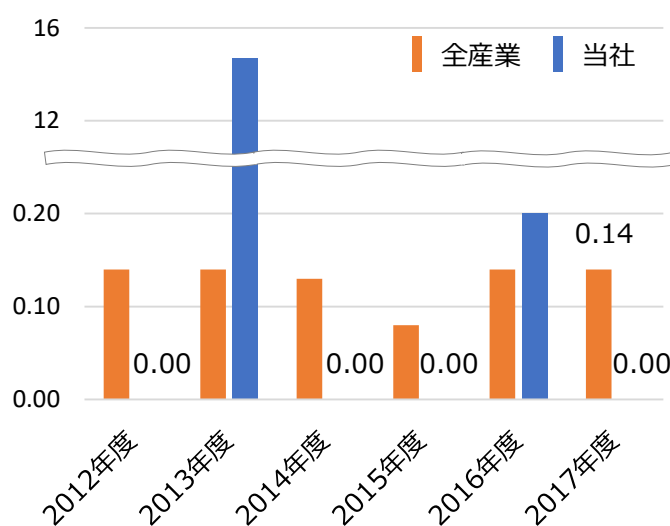


図2 強度率※2の年度別推移

※1 災害の頻度を表す（100万延労働時間当たりの労働災害による死傷者数）

※2 災害の重さを表す（1000万延労働時間当たりの労働損失日数）

出典：厚生労働省 労働災害動向調査

## Compliance

# コンプライアンス

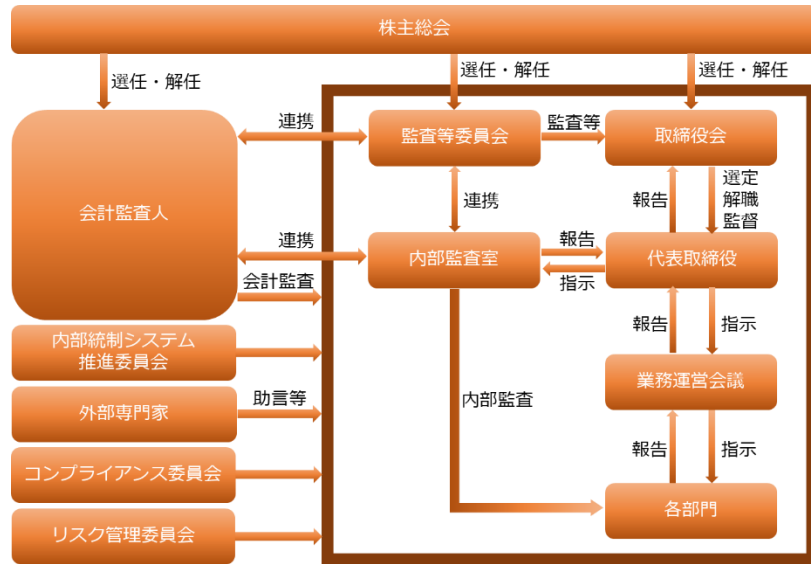
コンプライアンスとは、一般的に企業を健全に運営するための仕組みの基本原理の一つで、当社では、法令や社会規範に従って行動することを最優先事項の一つと考えています。

### 内部統制体制・組織運営・監査

当社の取締役会は、取締役7名（うち監査等員3名）で構成されています。毎月1回以上開催され、会社法に定められた事項や経営に関する重要事項が審議されています。

監査等委員会は、当社との利害関係のない社外取締役2名と常勤監査等委員1名で構成され、原則として毎月1回開催されています。各監査等委員は、取締役会及びその他の重要な会議に出席し意見交換する他、取締役の職務を監督しています。

内部監査室は定期・不定期の内部監査を実施しており、内部監査室長は当該監査結果を社長に報告しています。



▲内部統制組織 概略図

### 法令遵守

当社は土壌汚染対策事業を中心として、法的規制を受ける各種環境関連事業を営んでいます。そのため、一般の事業会社と共通のもの、業務上のもの、その他環境関連のもの等、主に以下の法律及び関連する政省令等の遵守を徹底しています。

一般的な法令	労働安全衛生法、労働基準法、道路交通法、消防法、建築基準法	
業務上の法令	各事業部門に共通	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
	土壌汚染対策事業	土壌汚染対策法、建設業法
	バイオディーゼル燃料事業	食品リサイクル法
	PCB処理事業	PCB特別措置法
	環境分析部門	計量法、毒物及び劇物取締法
その他環境関連等の法令	省エネ法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、下水道法、海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律、騒音規制法、悪臭防止法	

### 優良産業廃棄物処理業者認定制度

優良産業廃棄物処理業者認定制度とは、1.実績と遵法性 2.事業の透明性 3.環境配慮の取り組み 4.電子マニフェスト導入 5.財務体質の健全性といった、通常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした産廃処理業者を都道府県・政令市が審査して認証する制度です。当社は適正処理業者の証である当該認定を、12自治体（9都道府県+3市）から受けています（2018年3月末現在）。

# 第三者コメント

国立大学法人 筑波大学 生命環境系

鈴木 石根 (すずき いわね) 教授

名古屋大学で博士（農学）を取得。2011年より現職。植物分子生理学を専門とし、光合成生物における環境変化の感知・応答機構の解明、代謝制御機構の構築、藻類バイオマス生産の実用化に向けた研究・技術開発等を行っている。

また、つくば市のCO<sub>2</sub>排出量の削減、環境負荷低減や地方創生を目的とする「つくば3Eフォーラム」では議長を務める。



この度、ご縁がありまして、「環境・社会報告書2018」の第三者コメントを執筆させていただくこととなりました。

まず、報告書の作成は例年、新入社員の皆さんが中心となっていて行われていることに関心いたしました。会社の取り組みを俯瞰的に整理して公表することは、会社の概要を理解する上で非常に有効な手段であると思います。また、内容が多岐に亘ることや、社員の方々のコメント数の多さから、様々な部署との交流があったことが窺えます。他部署の方々とのコミュニケーションを重ね、一冊の報告書を完成されたことは、新入社員の皆さんが今後働いていく上で大きな糧となるのではないのでしょうか。新入社員に対する社内の協力体制をしっかりと整え、長きに亘りこのような取り組みを継続されていることは、非常に素晴らしいことだと思います。

本報告書は、全体を通してテーマの「芽ぐむ」に沿った内容となっており、設立から22年間で急速に成長を遂げた貴社が、今後さらなる成長を目指していることが伝わってきました。貴社の業界は一般の方々には馴染みが薄く、ビジネスの成り立ちが想像しにくい業界でもありますが、本報告書では事業間の繋がりが一目でわかる俯瞰図や各事業の細かな説明、図表を多く活用し、業界についてあまり詳しくない方にとっても、理解しやすい内容にまとめられていると感じました。

貴社での取り組みをSDGsの目標に当てはめて概説

している点も、読者の理解を容易にするという点でたいへん素晴らしいと思いました。SDGsを意識して取り組んでおられることから、社会貢献度の高い企業であるということが認識できました。

環境測定データに関する記事では、事業所ごとのCO<sub>2</sub>排出量等を算出し、客観的に目標との比較を行っていることから、PDCAサイクルを通じて事業活動に伴う環境負荷の低減に努め、ライフサイクルアセスメントをしっかりと行っていることが読み取れます。2017年度の環境負荷低減目標は全て達成されていますが、今後はより大きな目標を掲げ、それらを達成していくことも必要ではないかと思います。

最後に、我が国では高度経済成長期に国内生産の活発化や人口増加に伴い、数多くの工場や住宅が建設されました。しかし近年、国内生産の縮小化や人口減少により相次いで工場の閉鎖や住宅の解体が行われ、工場跡地の土壌汚染や多量の廃棄物等、様々な問題が生じています。また、最近頻発しております大規模な自然災害によっても多量のがれきが各地で生じており、それらの包括的な処理には最適な方策が示されているとはいえません。このような時代背景の中、貴社は確かな技術力と新たな事業に果敢に挑戦する機動力により、確かなソリューションを提供されてきました。今後も新しい「芽」を生み出し成長させることで、より大きな舞台でのご活躍と社会への貢献が可能であると確信しております。貴社の今後一層の発展を期待しております。

# 環境・社会報告書2017アンケート結果

「環境・社会報告書2017」には、読者の皆様から数多くのご意見を頂きまして、誠にありがとうございました。良かった点としては、「前年度のアンケート結果を踏まえ、年々分かりやすくなっている」「テーマを通じて統一感がある」「具体的なイラストがあり分かりやすい」といったコメントを頂きました。改善すべき点についてのご意見は、可能な限り反映させていただきました。主なご意見・ご要望、本報告書の検討・改善結果は以下の通りです。

項目	ご意見・ご要望	検討・改善結果
全体	読む人にとって必要な項目を考え、コンテンツを絞った方がよい。	当社の取り組みや事業をまとめた「SDGsへの取り組み」や「事業俯瞰図」の記事を作成しました。また、これらの詳細説明ページをすぐに開けるよう、ページ番号を記載しました。
	ページ数を増やした方がよい。	
	名古屋トランシップセンターに関する記載が少ない。	「事業紹介」や「環境負荷低減の取り組み」の項目で触れさせていただきました。
	社員のインタビューが少ない。	昨年より多くの社員インタビュー記事を記載しました。
事業紹介	事業の説明が少ない。	個々の事業を説明するページを作成しました。
	ブラウンフィールドに関する記載が少ない。	特集として取り上げました。

## 編集後記

環境・社会報告書2018を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。お陰様で当社の事業規模は年々拡大し、皆様にお伝えしたい内容も年々増えています。これは非常に喜ばしいことですが、同時に一冊にまとめることの難しさに直面いたしました。本報告書は、多くの方々の協力がなければ完成できませんでした。ご協力いただきました皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

当社には今後さらに成長し発展していくための芽が数多くあり、それらの芽を社員全員が一丸となって成長させるための環境整備を進めていることをお伝えしたいという思いを込め、テーマを「芽ぐむ」としました。本報告書を手にとってくださった皆様が、今後の当社の成長により一層ご期待いただけたのであれば、これに勝る喜びはありません。

これからも皆様の関心にお応えできるような報告書を作成してまいります。ぜひアンケートに率直なご意見・ご感想をお寄せくださいますようお願い申し上げます。





# 環境・社会報告書 2018 アンケート

環境・社会報告書 2018 をお読みいただきありがとうございます。今後の環境・社会報告書作成の改善のため、本アンケートの回答にご協力をお願いいたします。

年齢：10代以下・20代・30代・40代・50代・60代以上  
性別：男性・女性 職業：学生・会社員・公務員・その他  
当社との関係：お客様・株主様・お取引先・行政・金融機関  
・環境 NGO NPO・その他（ ）

## 1. 本報告書を読んだ感想をお聞かせください。(5段階評価)

- (1) 内容は分かりやすかったですか わかりにくい |—————| わかりやすい
- (2) 内容は充実していましたか 不足している |—————| 充実している
- (3) デザイン、レイアウトはいかかでしたか 悪い |—————| 良い
- (4) ページ数は適当でしたか 少ない |—————| 多い
- (5) 当社の取り組みについてご理解いただけましたか できない |—————| できる
- (6) 当社の取り組みは評価できますか できない |—————| できる

## 2. 印象に残ったページや取り組みがありましたらお教えてください。(複数回答可)

- |                                      |                                   |                                      |                                       |
|--------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 表紙          | <input type="checkbox"/> 目次       | <input type="checkbox"/> トップメッセージ    | <input type="checkbox"/> 会社概要         |
| <input type="checkbox"/> SDGs への取り組み | <input type="checkbox"/> 事業紹介     | <input type="checkbox"/> 特集 既存事業拡大の芽 | <input type="checkbox"/> 特集 新規事業の芽    |
| <input type="checkbox"/> 環境マネジメント    | <input type="checkbox"/> マスバランス   | <input type="checkbox"/> 環境測定データ     | <input type="checkbox"/> 環境負荷低減の取り組み  |
| <input type="checkbox"/> 社会貢献活動      | <input type="checkbox"/> 外部インタビュー | <input type="checkbox"/> 働きやすい職場づくり  | <input type="checkbox"/> 特集 繋がり意識向上の芽 |
| <input type="checkbox"/> 安全衛生管理      | <input type="checkbox"/> コンプライアンス | <input type="checkbox"/> 第三者コメント     | <input type="checkbox"/> アンケート結果・編集後記 |
| <input type="checkbox"/> 裏表紙         | <input type="checkbox"/> その他（ ）   |                                      |                                       |

## 3. 本報告書のことをどちらで知りましたか。

- 当社ホームページにて インターネット検索にて 当社営業担当者より マスメディア（ ）
- その他（ ）

## 4. ご意見、ご感想等ご自由にご記入ください。

当社資料（会社案内パンフレット等）送付希望の方は以下のご記入をお願いいたします。

(フリガナ)

お名前

(フリガナ)

会社名

ご住所

〒

**アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。**

株式会社ダイセキ環境ソリューション 企画管理本部 総務部 総務課 宛 FAX : (052)611-4022



ダイセキ環境ソリューション

検索

